
トーランドットの錬金術師
トーランドットの錬金術師
加藤洋之&後藤啓介
FUSION PRODUCT
加藤洋之&後藤啓介
FUSION PRODUCT

トーランドットの錬金術師

加藤洋之&後藤啓介

FUSION PRODUCT

ISBN4-89393-050-8 C0079 P1236E 定価1236円(本体1200円)

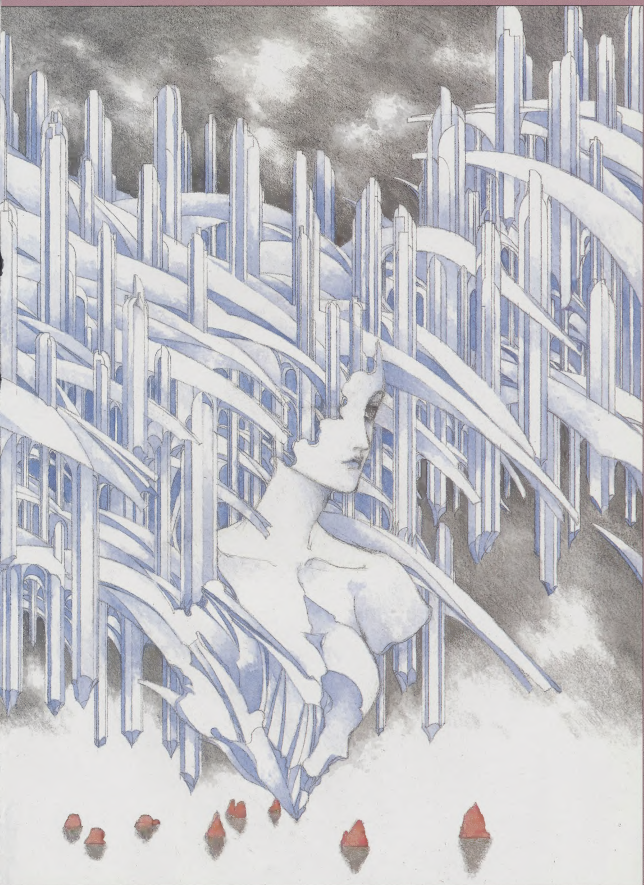


トーランドットの錬金術師

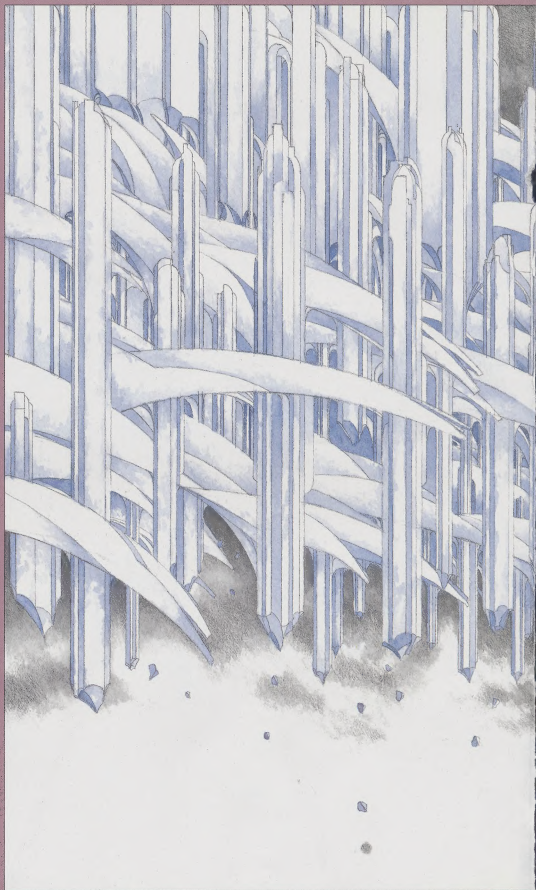
加藤洋之&後藤啓介

目次





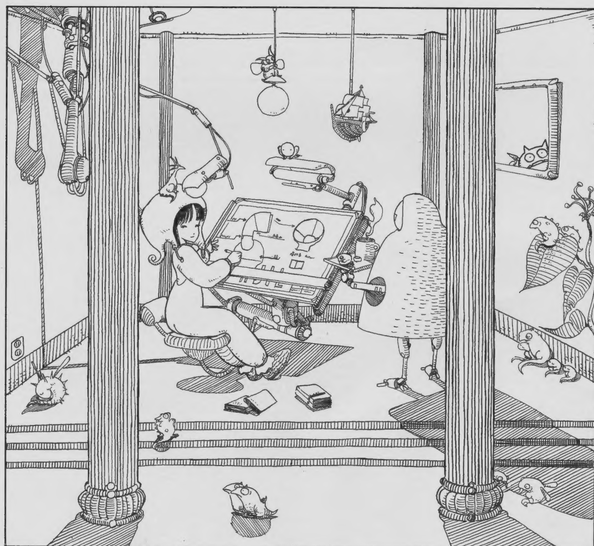
009　蒼晶律



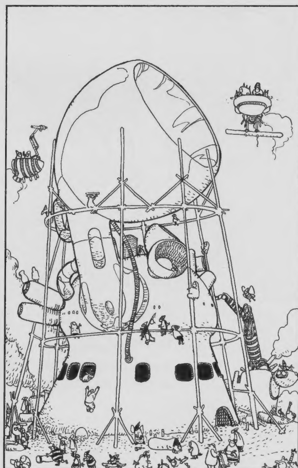


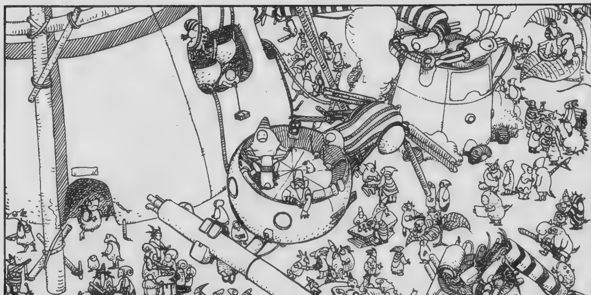
トーランドットの錬金術師

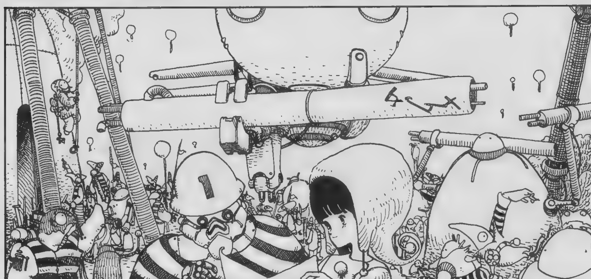
序曲 第1章

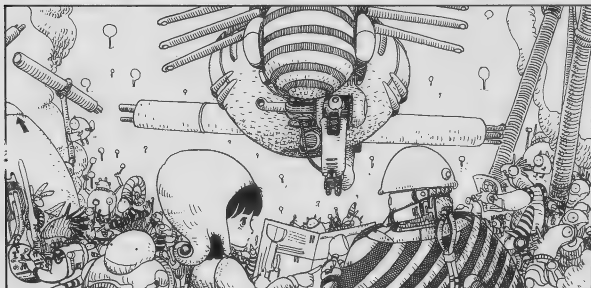


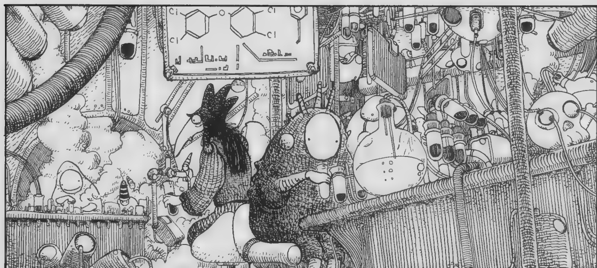


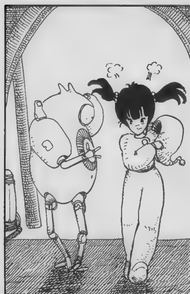


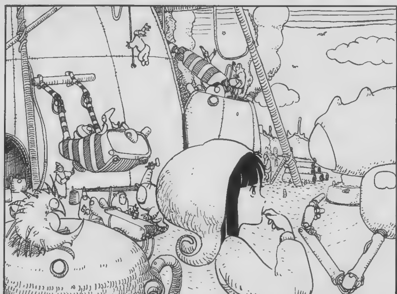




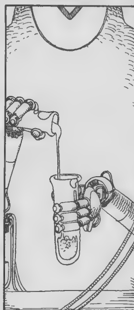



Cl
Cl
Cl
Cl

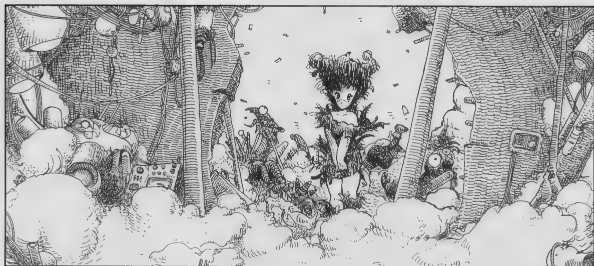


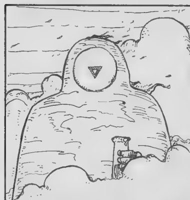


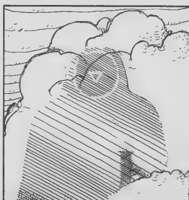


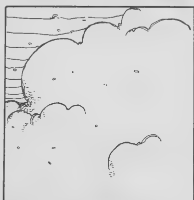


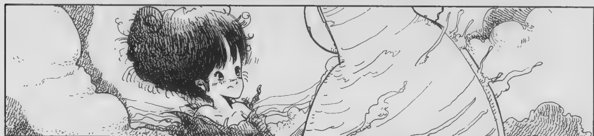

DANGER



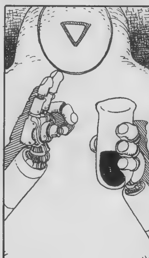


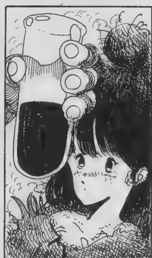


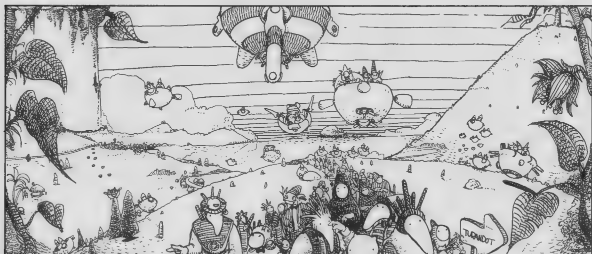


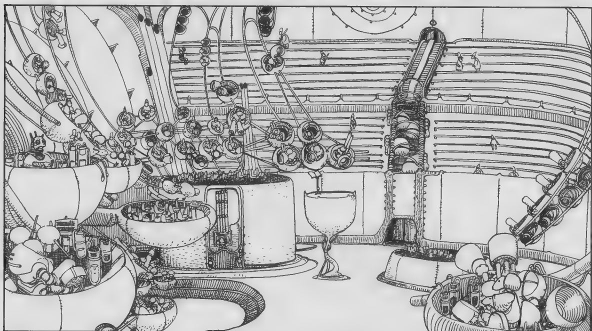


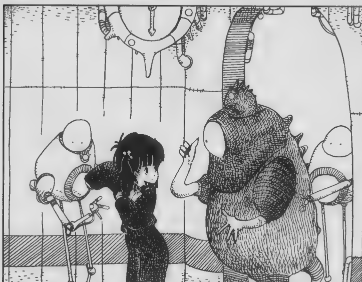


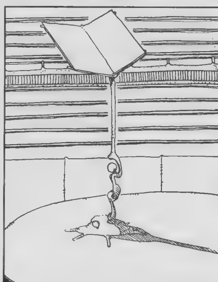


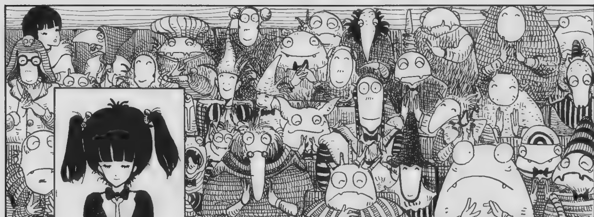


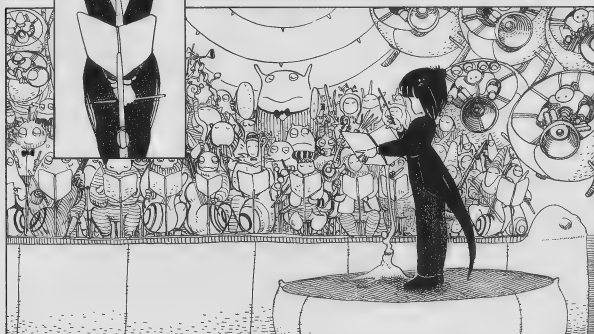

TURANDOT

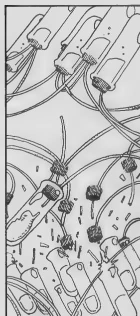


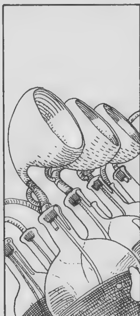


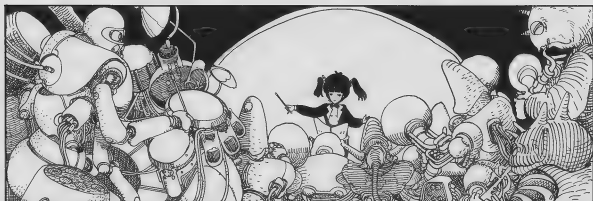


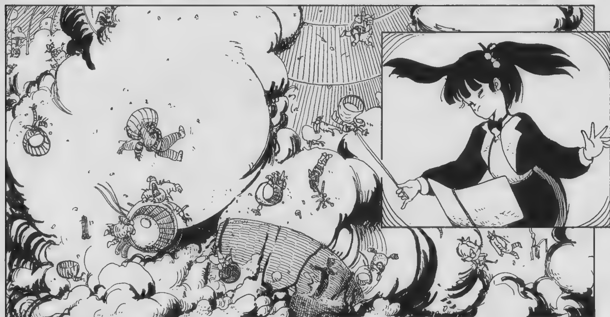


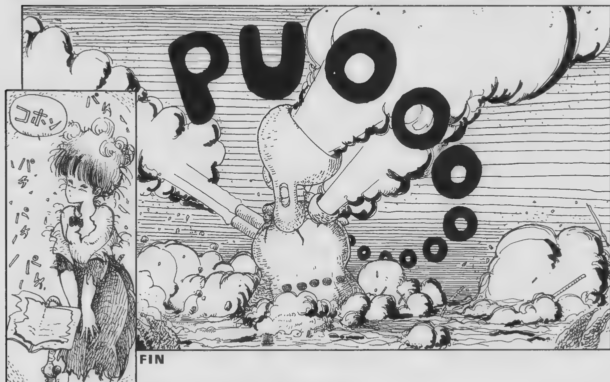






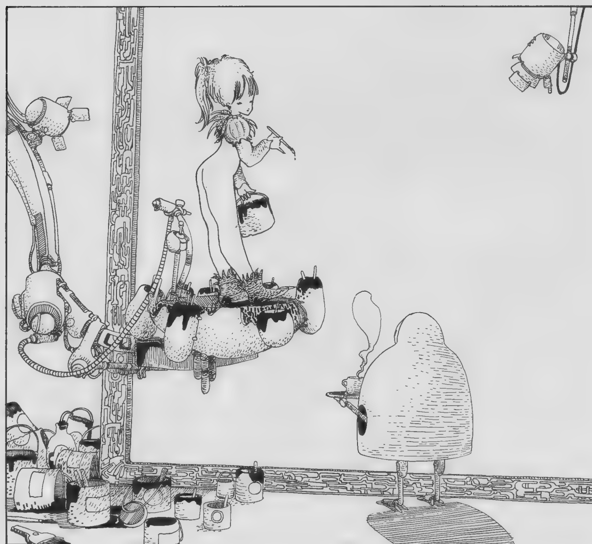




PUOOOOOOOO
コホン
パタ
パタ
パタ
パタ.
FIN

トーランドットの錬金術師

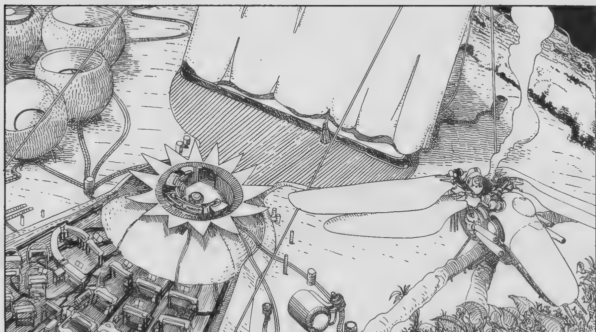
序曲 第2章



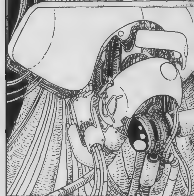


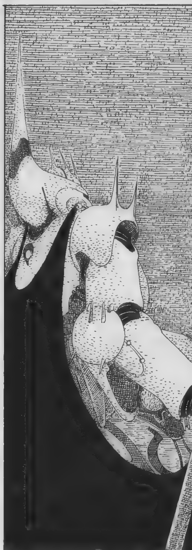


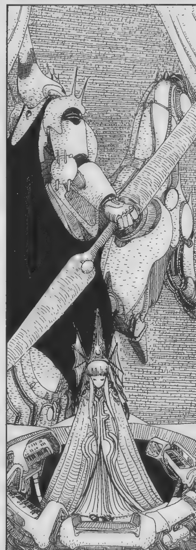




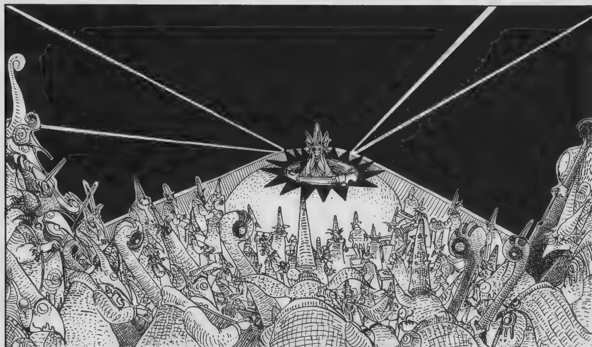
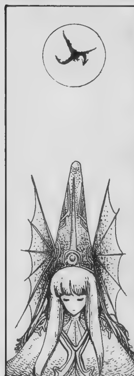


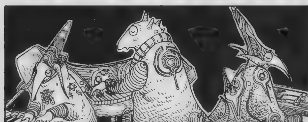




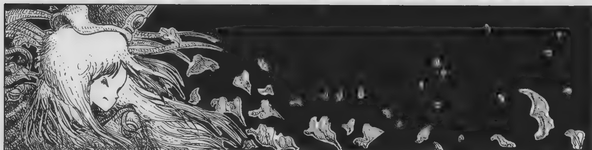




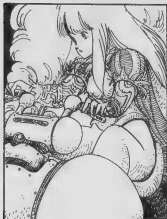
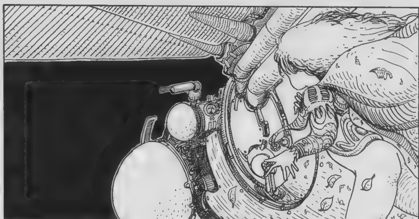













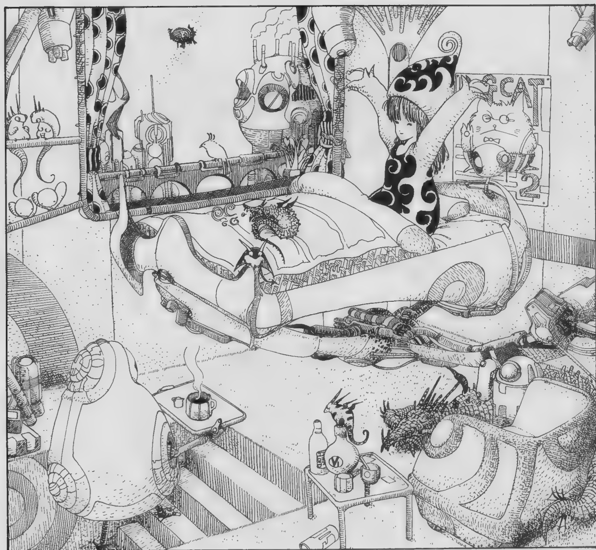
1984.12.9.AM11:13了

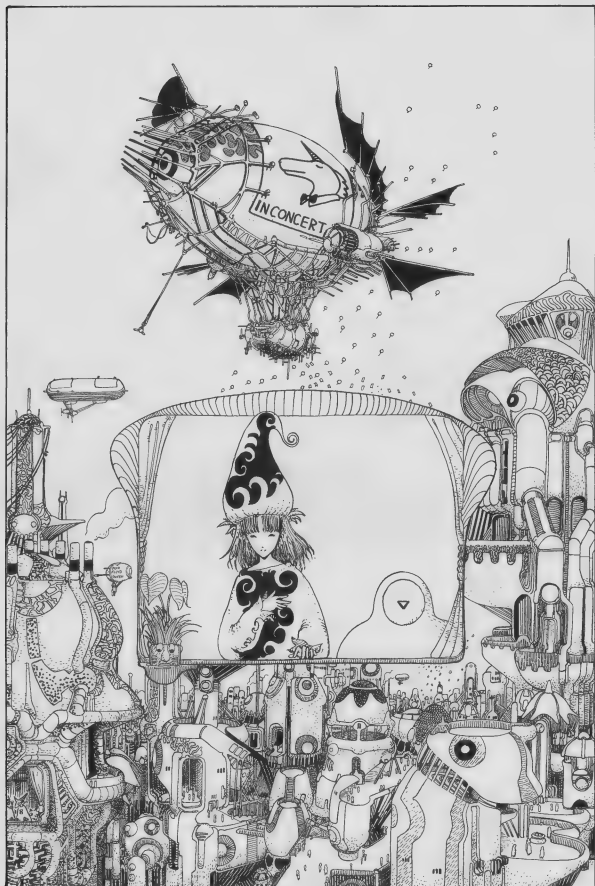
Fin

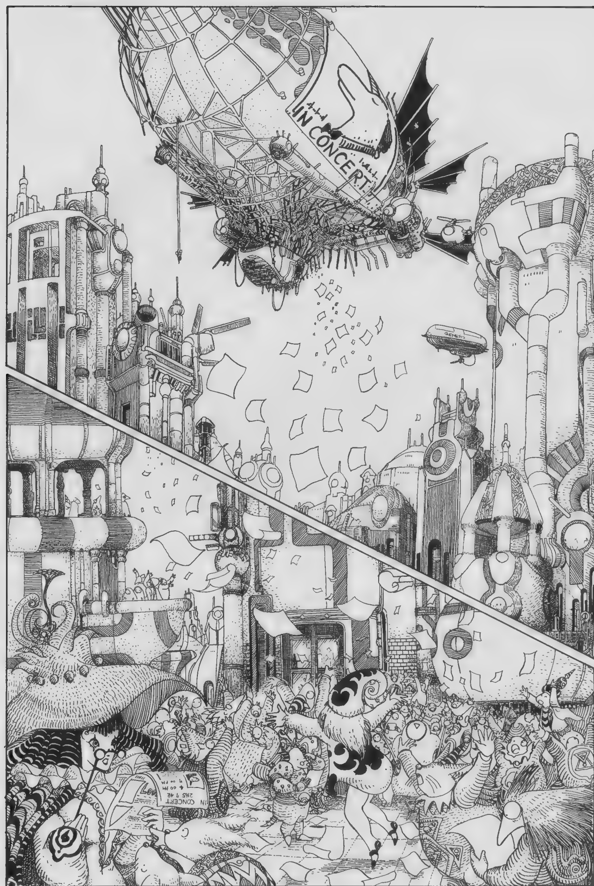
BGM：GENESIS／怪奇コットウ音楽箱　PETER GABRIEL／PLAYS LIVE／P.G.Ⅳ　ヴァン ゲリス／Soil Festivities
ELP／LIVE／PICTURE ON EXHIBITION／　QUEEN／オペラ座の夜　ブルース ブラザーズ／オリジナルサントラ

トーランドットの錬金術師

序曲 第3章

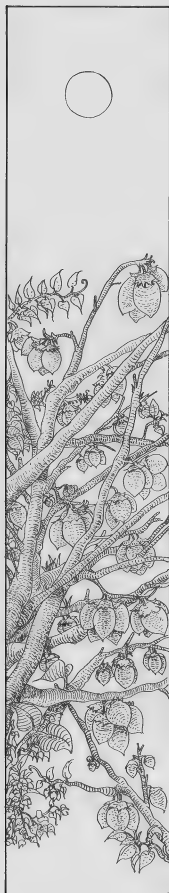


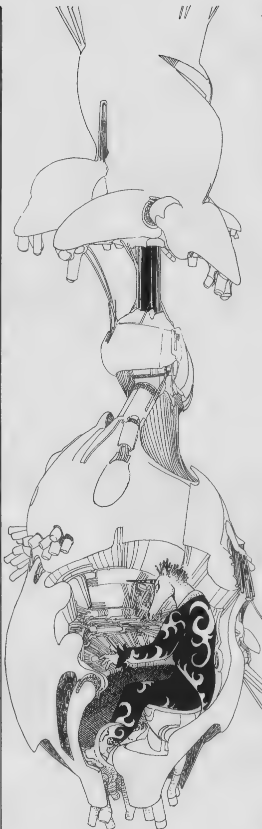

IN CONCERT


IN CONCERT
GENESIS



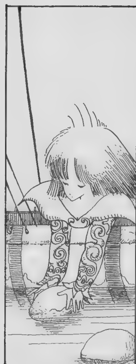


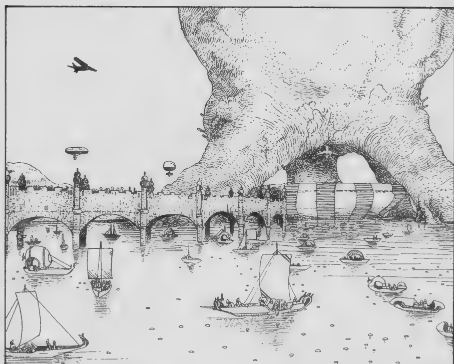


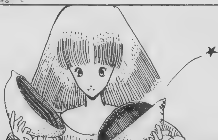


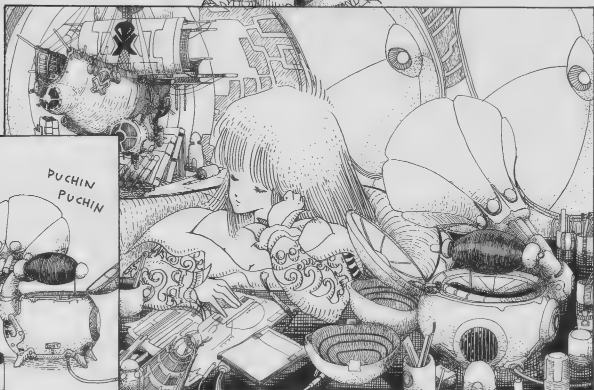


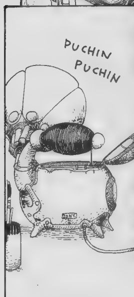








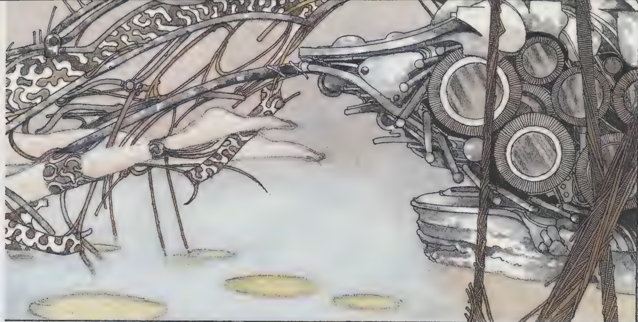


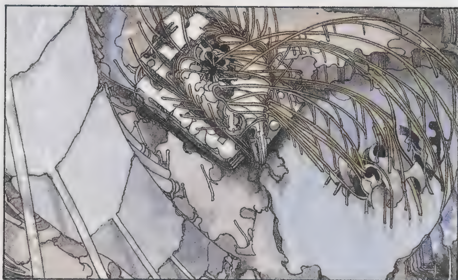


FIN

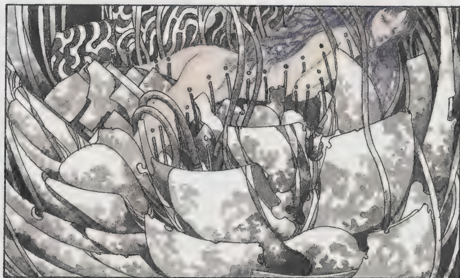
035



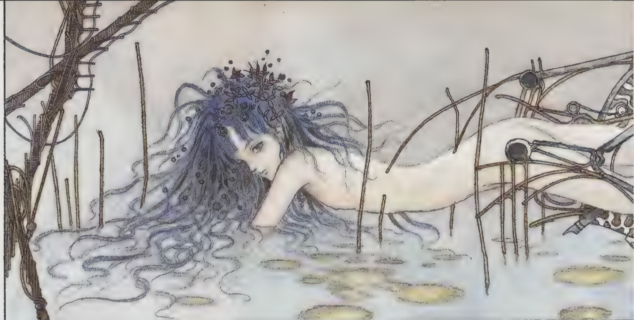




わたしは希望を失いかけていたの
新しい生態系の中で、わたしだけが
取り残されてしまった。
そこに戦争がやってきたの。
戦争など戦争の記憶にも存在し
ないのに。



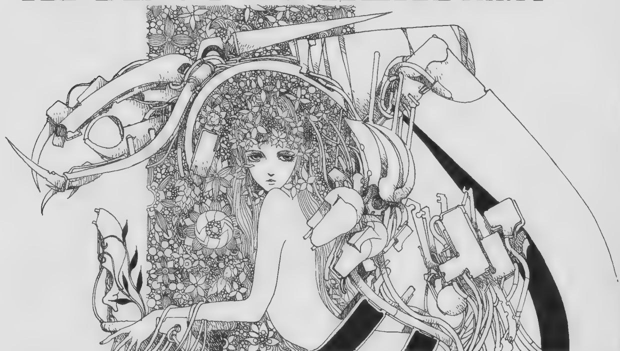
戦争はわたしを包み込み、そして待った。
おたがいに解かり合うには時間がかかるのよ。
わたしは少しづつ自然の中に取り込まれていく
自分を感じた。
そして自然というものの巨大な自動機械の中で、
私達は天使として目覚め空に向かう。





038

AFTER THE HEAT PART 2



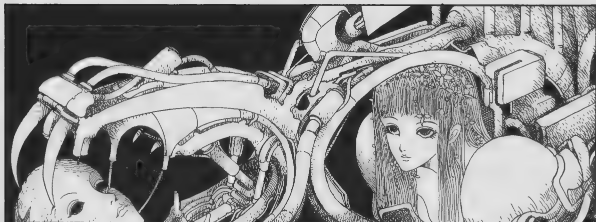
廃墟庭園を歩くけもの。
少女と機械の柔軟(ソフィスティケート)な
愛の関係。
そして——
けものは走る。
宇宙はエントロピーの法則に
従って絶対温度3度に
均一化しようとしている。
でも、少女と機械は
信じられないほど
あたたかい。





人形師の館
再び世界に機械と人形の二項対立を
もくろむ人形師。
けものの牙は何を求めているかを
知った。

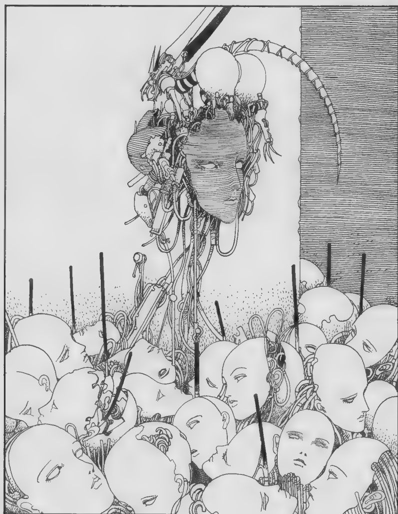






けものの牙は首のひとつをくわえる。
そして

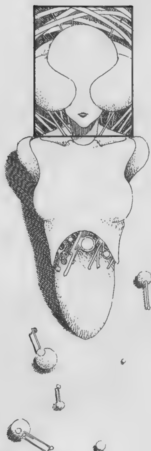
帯電した牙は人形師の夢を木端微塵に砕く。

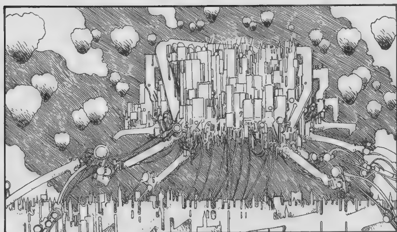


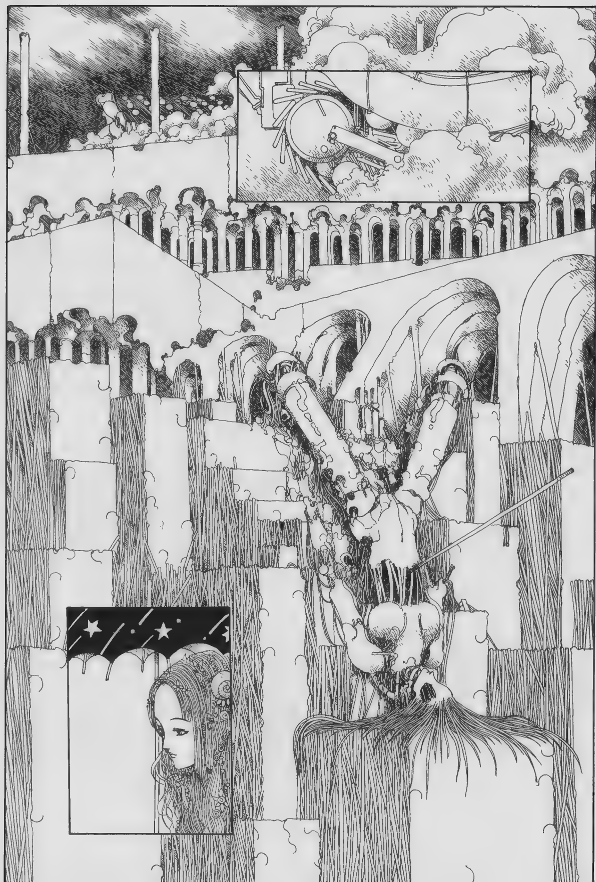
FIN

OXID MUSIC
—酸化した音楽—

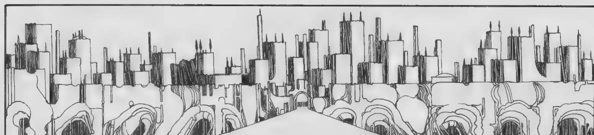
あの町も
カオルーンに侵略されて
しまったのか

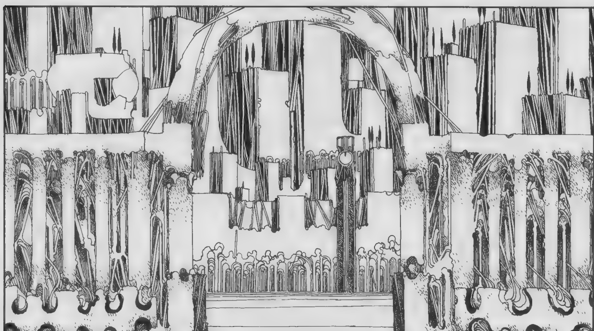




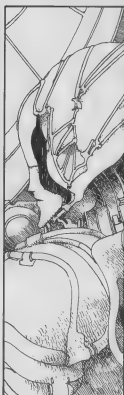


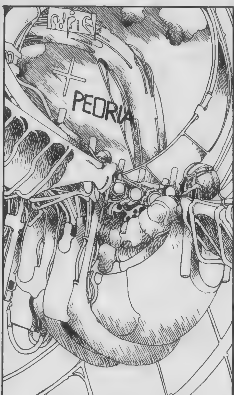


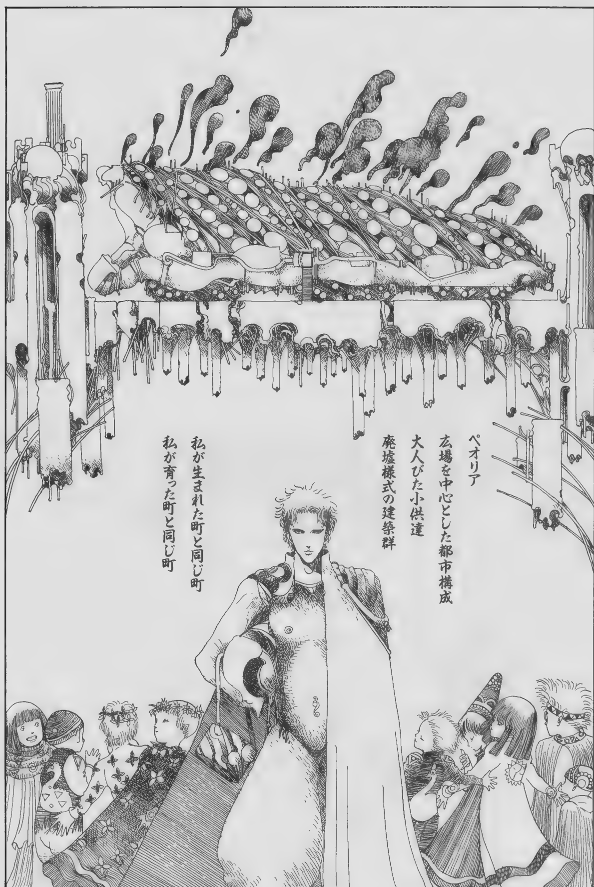


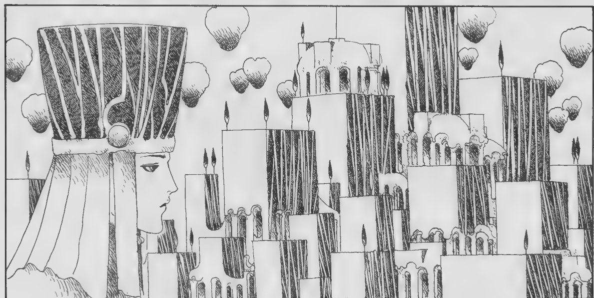






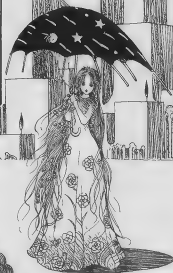

PEORIA


ペオリア
広場を中心とした都市構成
大人びた小供達
廃墟様式の建築群
私が生まれた町と同じ町
私が育った町と同じ町




是非我々の町「ペオリア」をカオルーンから守ってください

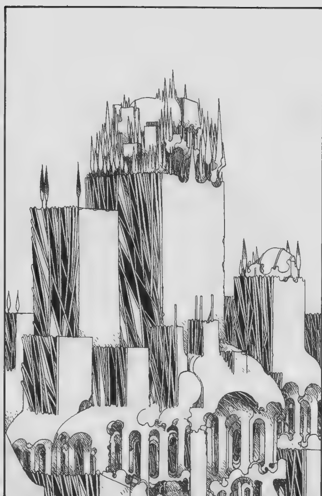

薄笑いを浮かべる市長

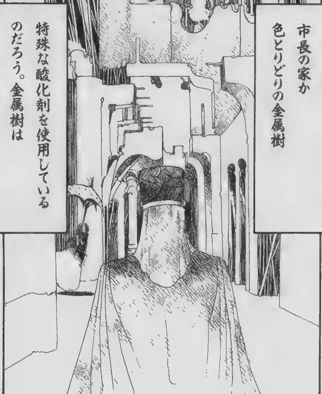

あの少女は…陽炎のような少女

髪の毛の中に
海を…
世界を持っているような

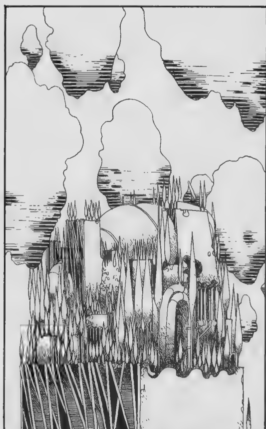


優美で繊細なピアノの音
のように
そして無機的





あの金属樹でおおわれた森が、
市長の家か
色とりどりの金属樹

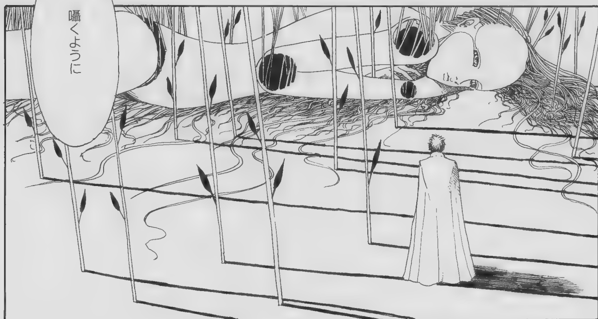


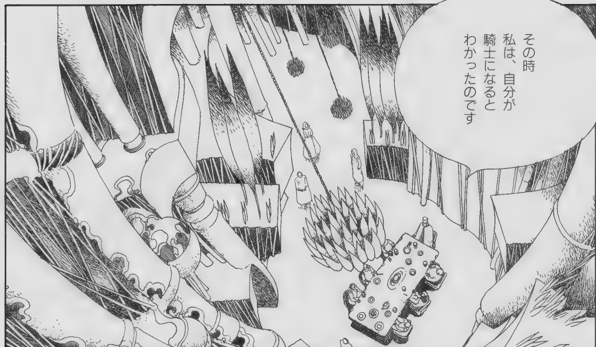


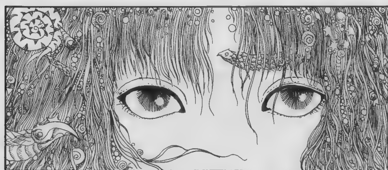
特殊な酸化剤を使用している
のだろう。金属樹は
赤黒く錆びてこそ美しいのに


夢の中で


機械人形が話かけてきました


囁くように


その時
私は、自分が
騎士になると
わかったのです






失礼ですが
あなたは昔
音楽家であったと
聞きましたが…

現在の戦闘理論では人の肉体の束縛からいかに本質的部分を解放し、巨大な戦闘機械と密な接触をするかにかかっています

それを導くのが音楽なのです

ほほう

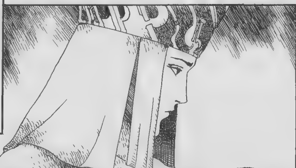
是非拝聴したいものです

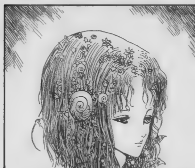
音階の五度、七度のインターヴァルが徐々に人の心を幻機械的世界へ開放します

ここの人間に私の音楽がわかってたまるか

なぜ、私はこの町に配属されてしまったのだろうか





子供の頃とても鮮明な夢を見たんだ

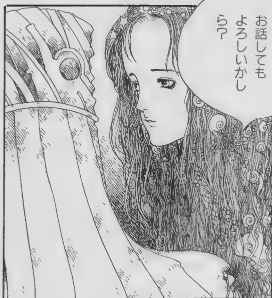
どんな？

機械人形の…

機械人形は何かしゃべった？

いや何も…

でもそのことを両親に話したら彼らはとても喜んだ


お話しても
よろしいかし
ら?


どうも申しわけ
ありません
私の娘シララです
シララ ちゃんとした
あいさつを…

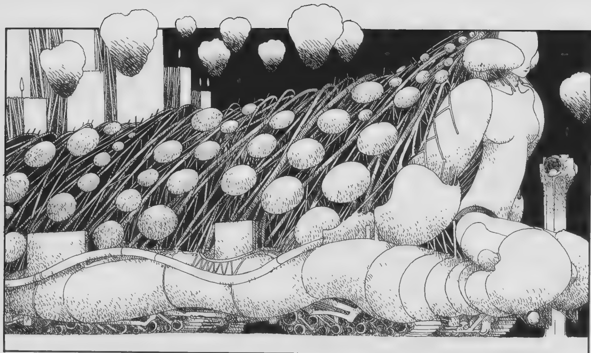

この町に
マリアという
人がいたはず
ですが…


ええ
おりましたとも
この町の住人は
すべて
私の頭の中に


うちの娘の
家庭教師を
やってもらって
いたんだが…

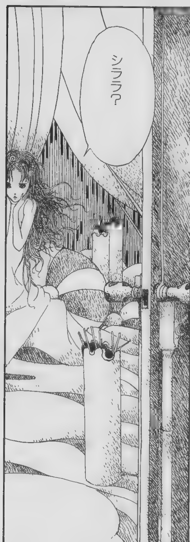

やめてもらい
ました
あの娘、実は
カオルーンの
出身者
でしてな

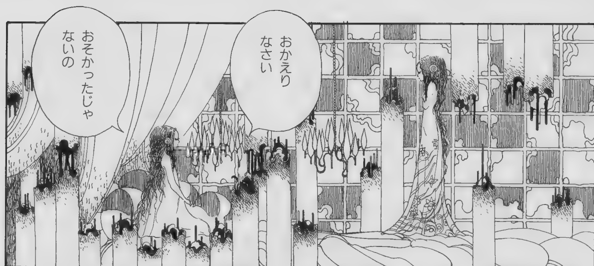
マリア ほら
背中から羽根が
生えてきただろ
毎日羽根が生える
ように考えて
いたんだ
素敵ね
もっと大きくなって
私をカオルーンに
つれていって
ほしいわ
チェック
ペオリアのマップを出せ
規約により一部モードを
改変
マリアは
カオルーンの
出身者である
ことを ぼくに
隠していた…




おとうさま
おやすみなさい
ああ
おやすみ

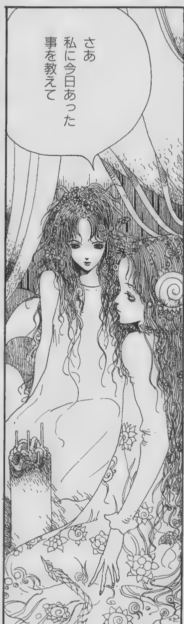



シララ?

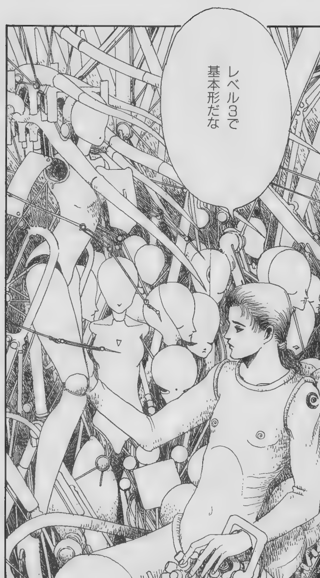

おかえり
なさい
おそかったじゃ
ないの






さあ
私に今日あった
事を教えて

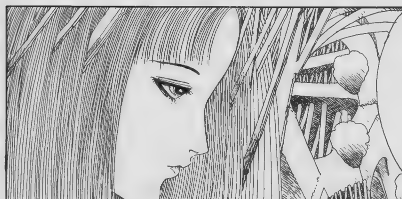

うふふふ
そう
そう素敵ね
騎士様
うふふふ
すばらしい方ね…

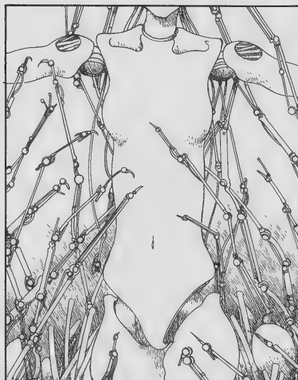

レベル3で
基本形だな

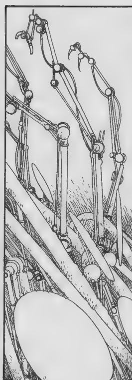

マリア…

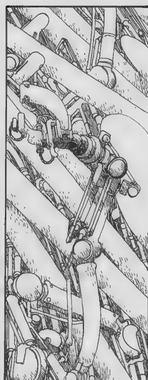
ほら、こんなに羽根が大きくなった
どんな夢だったの?
君をカオルーンに連れていってあげるよ
昨夜の夢の話をして
夢の話を…
大きな機械人形と…
そう愛されたのね…

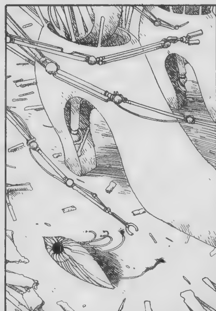
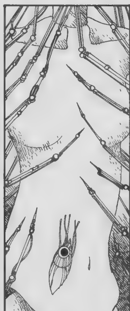
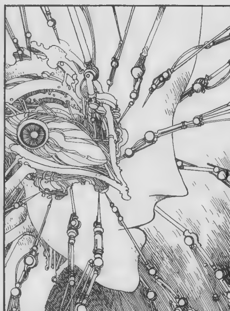
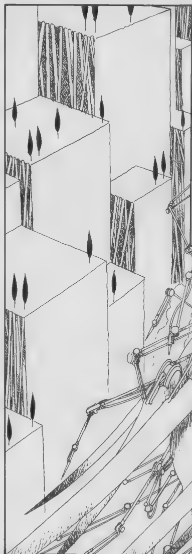
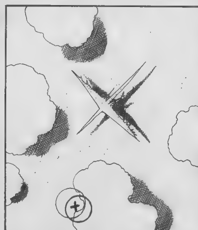

機械人形に
愛されたの……

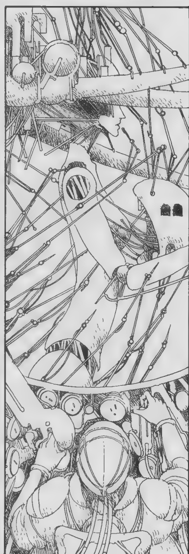


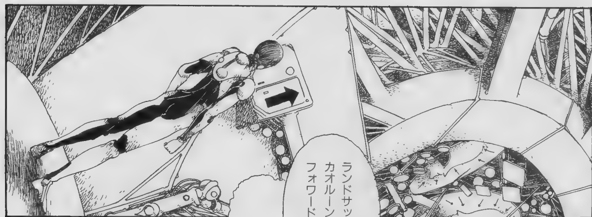


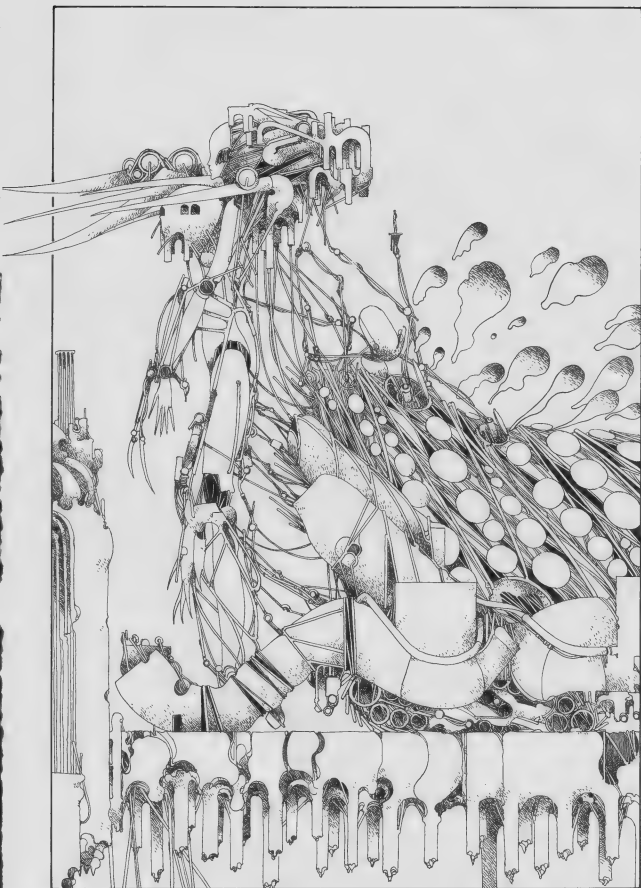




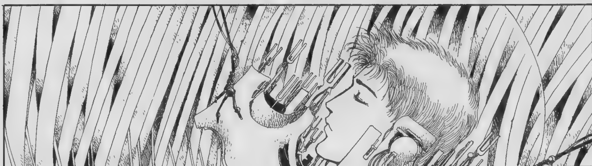






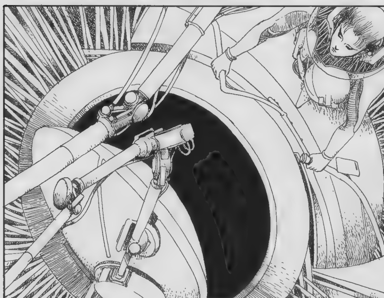



ランドサット・アイが
カオルーンの
フォワードを 補足



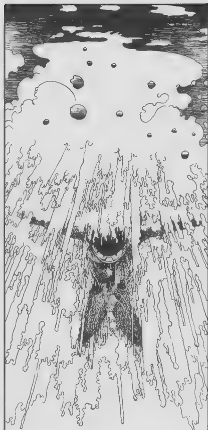




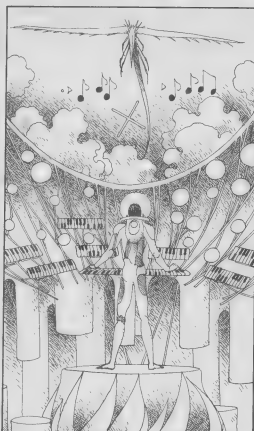




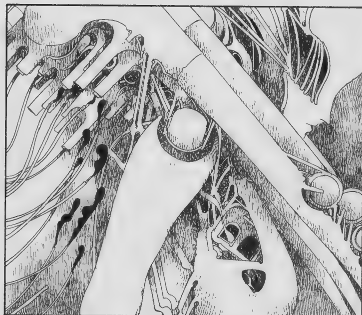




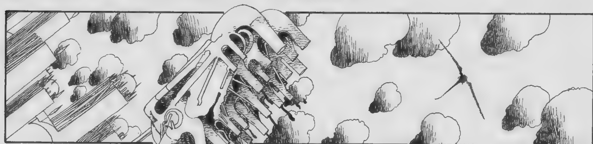












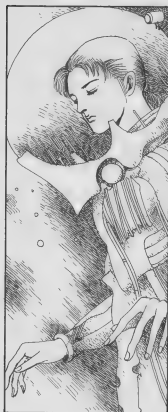




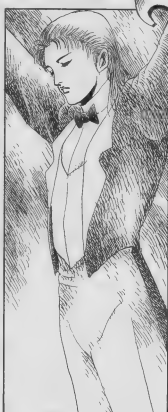


巨大機械の前で
タクトを振る私
理想の夢
理想の世界

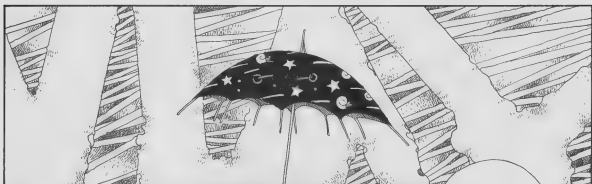


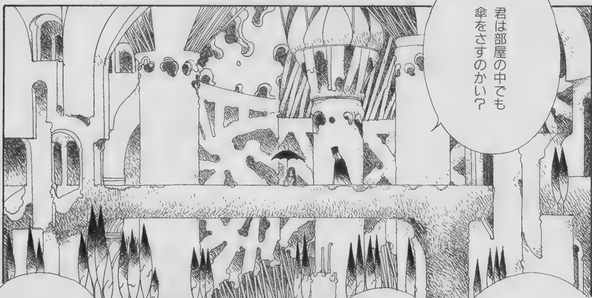





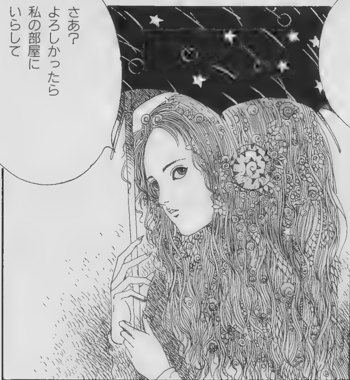


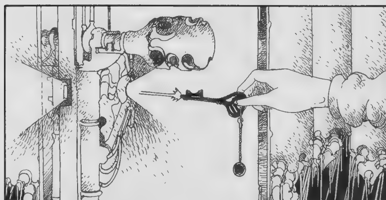
おめでとうございます
あれはフォワードです明日、決闘規約通りカオルーンの地上主力兵器が　きます
それに勝てばカオルーンはこの町を素通りしていくだろう
いやいやすばらしい戦いぶりです
すばらしい安心しました



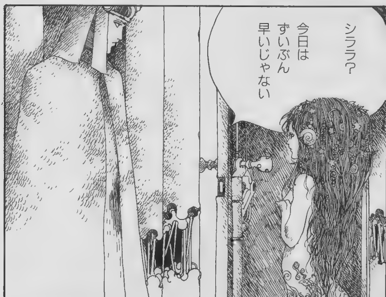

君は部屋の中でも
傘をさすのかい？


部屋の電球の
光は太陽の光と
同じくらい
まぶしいわ
金属樹の
乱反射のせいかな


さあ？
よろしかったら
私の部屋に
いらして



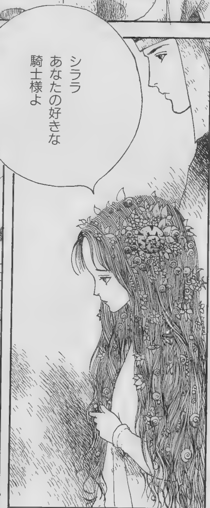



シララ？
今日は
ずいぶん
早いじゃない


だれか
いるのか？

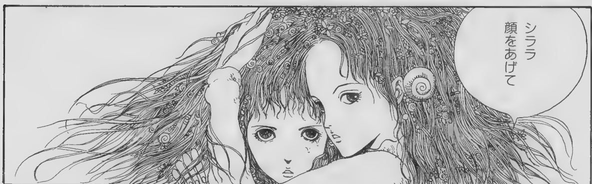


えっ
だれ
やめて








シララ
顔をあげて

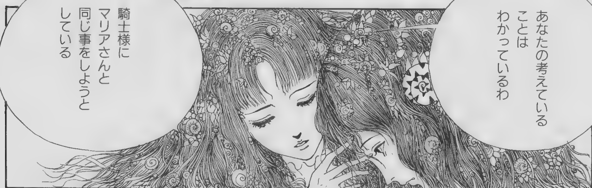
079


君達は
双子なのかい?


この子は
外の世界を直接
受けいれられないんです
だから私が毎日
外で起きた事をこの子に
教えてあげていた
心を開けない
弱虫の
おじょうさん


あなた
だんだんあの家庭教師(マリア)
に似てきたわ


もう
あなたに私の心の中
を見せることは
できない

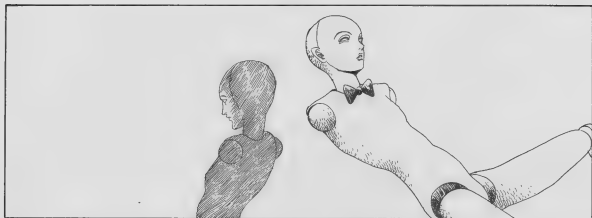

あなたの考えている
ことは
わかっているわ
騎士様に
マリアさんと
同じ事をしようと
している

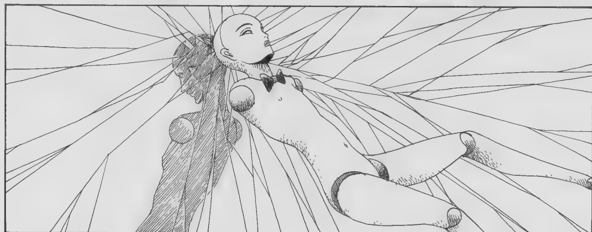

マリア
が
どうした！
私は
騎士様が…
ただの機械人形
のくせに！



ほら
マリア
飛べる

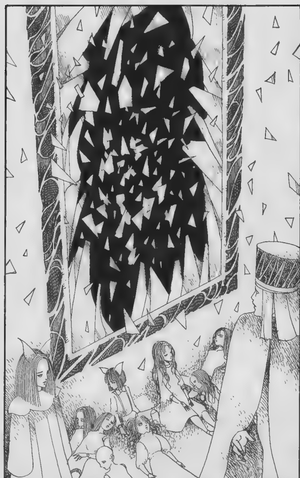




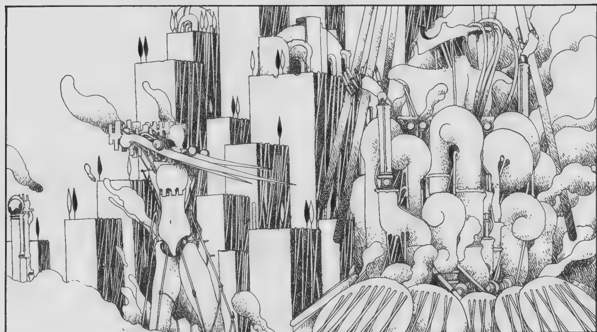








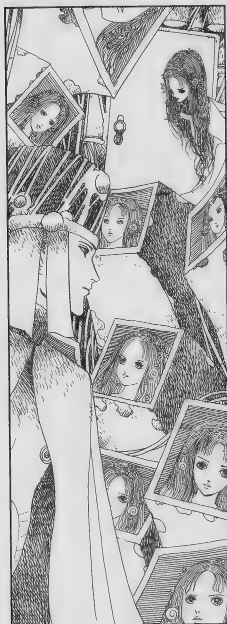
マリア!?

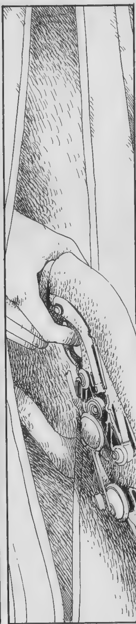


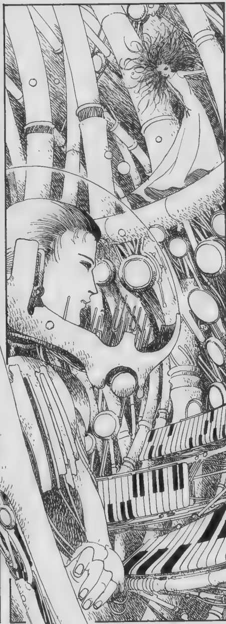


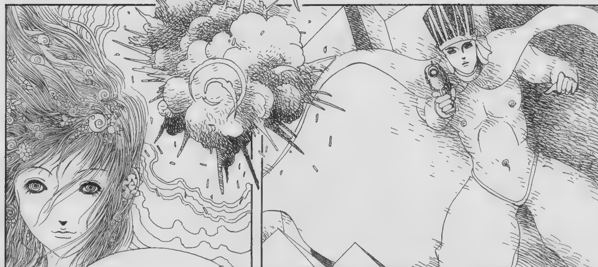


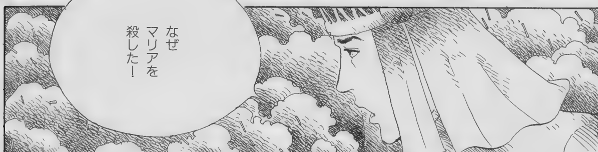

ピピッ
ピピッ
〝システム内部に
別の意識（プログラム）が侵入
してます〟

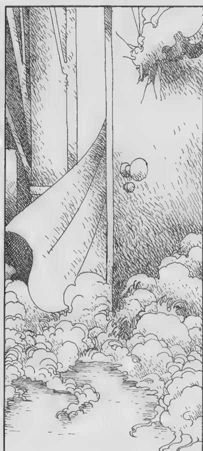


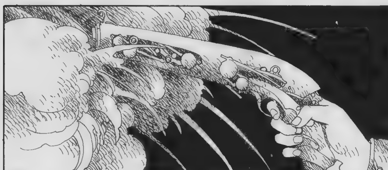







なぜ マリアを 殺した！

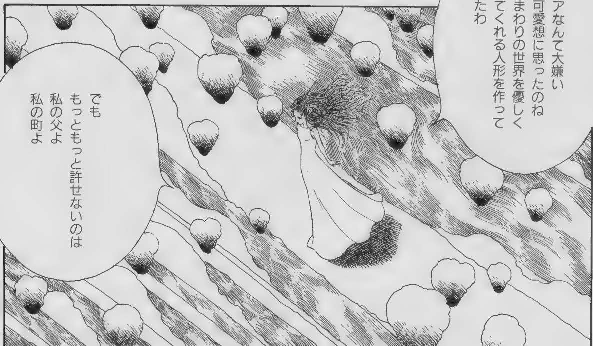






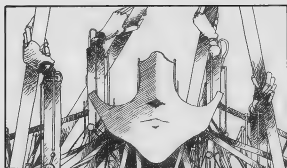

私の世界へ
ようこそ

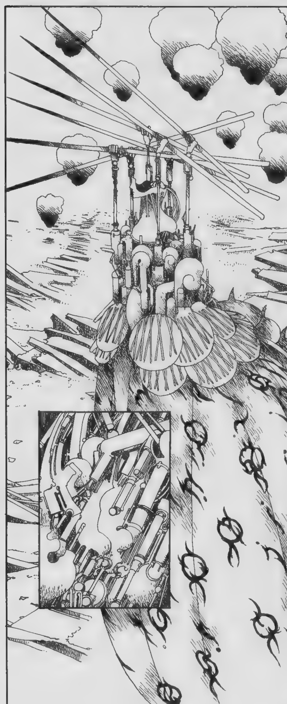



マリアなんて大嫌い
私を可愛想に思ったのね
私のまわりの世界を優しく
伝えてくれる人形を作って
くれたわ
でも
もっともっと許せないのは
私の父よ
私の町よ

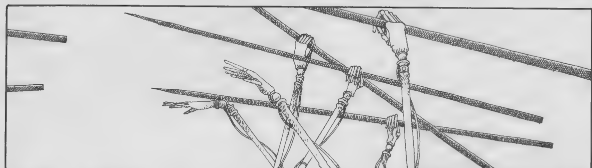

あたらないわよ　へたね

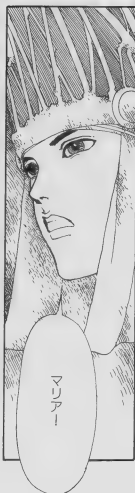

あなただって機械人形の虜でしょう　私と同類よ
マリアより　あの機械人形を　選んだはずよ

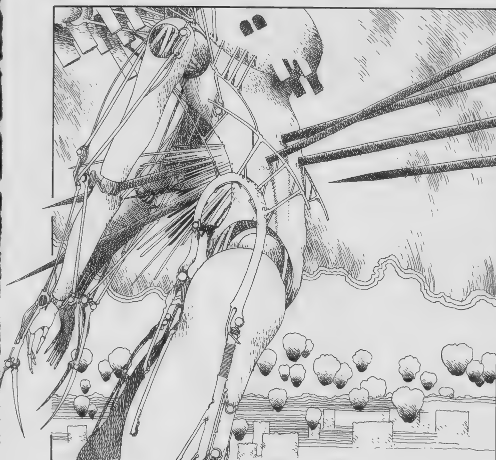





もうあなたは
彼女を助ける
ことはできないわ

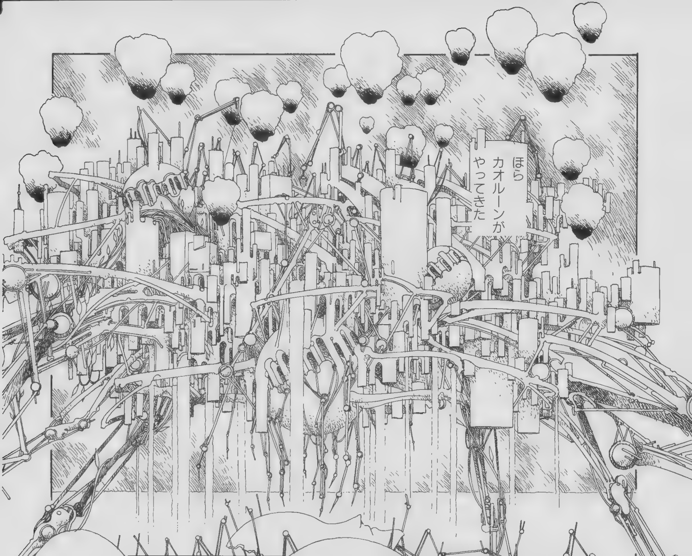



マリアー!




わかったでしょう
私はあなたを愛してるの
マリアの心をのぞき込み
奪った時から





ちがう！
夢だ

夢なんかじゃないわよ
これは機械人形のスリット
を通して見ている
現実の映像よ！

あなたは都市防衛に
失敗した騎士なのよ

ちがいます騎士様
これは夢です

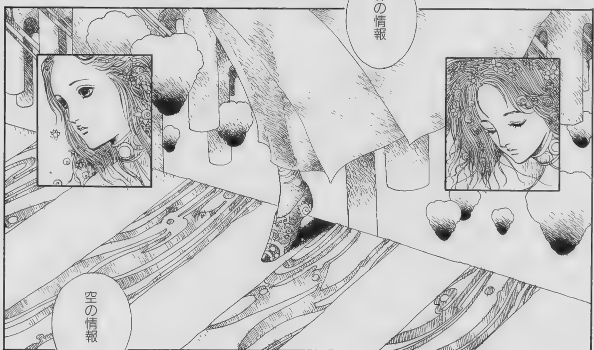


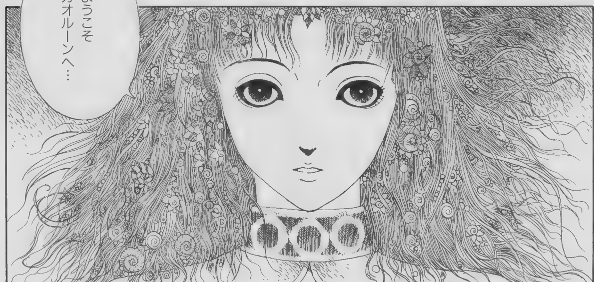




さあ
夢から醒めましょう
大丈夫
私があなたの
目醒めるべき世界の
方向を定めてあげる
きて！

水の情報




ようこそ
カオルーンへ…

いい町でしょう
みんな夢を見て
暮らしているの

この町の機械は
あなたの心を奪おうと
しない
あなたの心を閉じようと
しない



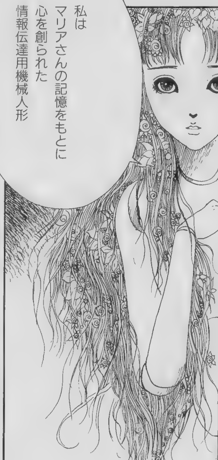

君の部屋？
ええ

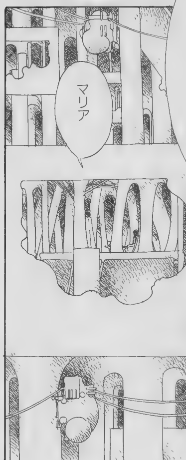




カオルーンは寄生都市だ
他の都市にへばりつき
エネルギーを
情報を吸いとっていく
そして
増殖していくんだ

私はカオルーンを
敵とする騎士だ





機械は
兵器と化した時
機械の生態系から
はずれてしまうの

人の心もそう
でも自分の意志で
はずれていくんじゃない
まわりがそうさせるの
まわりが限定し
閉じていく

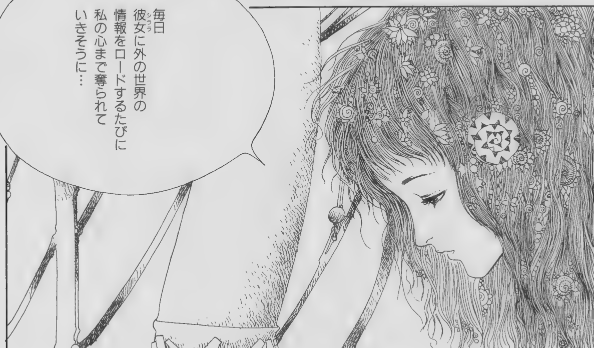
この町ではだれも
あなたの心を奪わない
人も、町も、機械も
そして
音楽も…

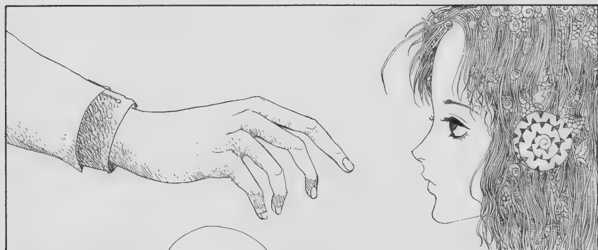
そんな顔しないで
あなたの人形兵器のシステム
と私の心をつないだの

なぜって…

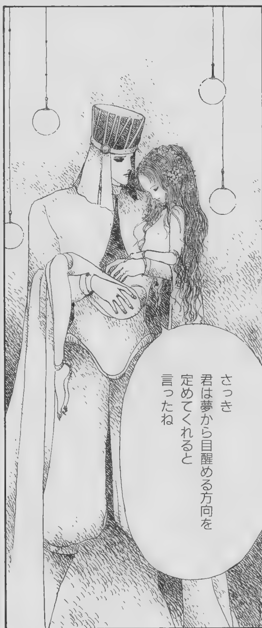

あなたを助けるため


彼女(シララ)の心から戦闘機械からあなたを守るため
そして私はマリアさんからもらった記憶を守るため


毎日彼女(シララ)に外の世界の情報をロードするたびに私の心まで奪られていきそうに…

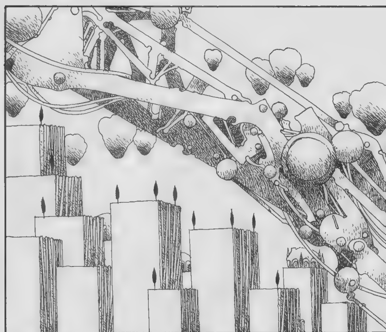






102







なんてことだ
これでこの町も
おしまいだー

騎士は見つかったか
何もかも
あいつのせいだ

いえ
しかし

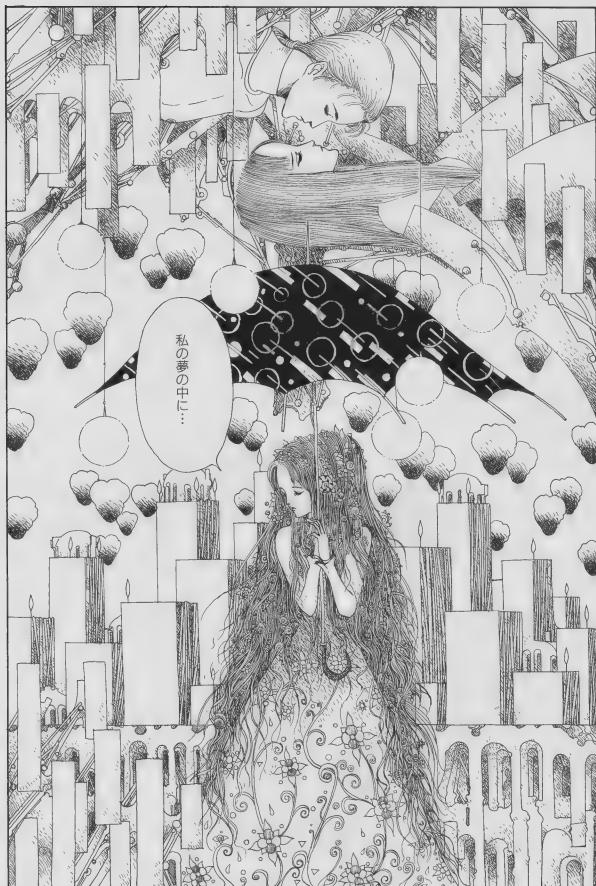
シララー


撃たれている
くそお
どうゆうことだ


おとうさま


シララ?


あの方は
もうその人形兵器の
中にはおりません



FIN

初出一覧

石晶の森	〈描き下ろし〉		'89.7
蒼晶律	〈描き下ろし〉		〃
想刻	〈描き下ろし〉		〃
トーランドットの錬金術師	序曲第一章〈コミックボックスジュニア〉	ふゅーじょんぷろだくと	'84.12
〃	序曲第二章〈 〃 〉	〃	'85.2
〃	序曲第三章〈 〃 〉	〃	'85.4
AFTER THE HEAT	Part1〈リトルボーイ〉	〃	'88.春
〃	Part2〈リトルボーイ〉	〃	〃
OXID MUSIC	酸化された音楽〈描き下ろし〉		'89.6
パラダイスドラゴン	〈がくゆう3年生〉	麦の芽出版	'85.4〜'86.3



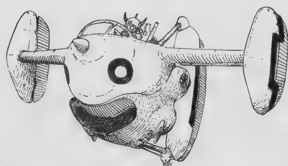
ずいぶんむかしの話です。
パセッーという国にひとりのまずしい羊飼いの少年がいました
かれの名をユーウといいます。

ユーウはハイ・ツリアの[illegible]にまよいこんでいく
東のドラゴンから[illegible]
ともに旅に出[illegible]。

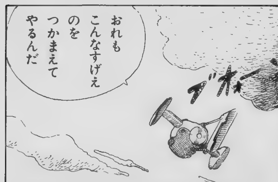
パラダイスドラゴン

パラダイスドラゴン

第1回





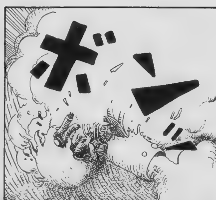




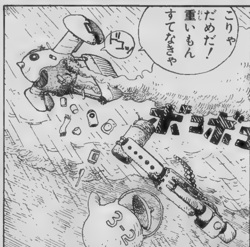


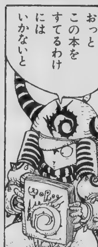




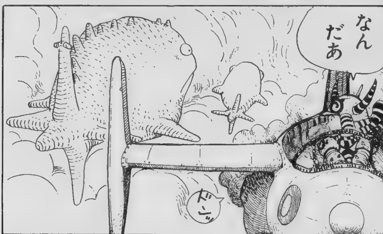

ボン


ズゴン
ごほん
ごほん
エンジンまで
いかれちゃった

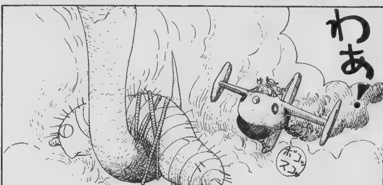

こりゃ
だめだ！
重いもん
すてなきゃ
ドゴッ
ボコボコ
3-2

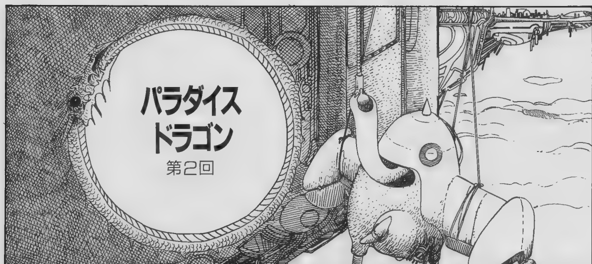

おっと
この本を
すてるわけ
には
いかないと

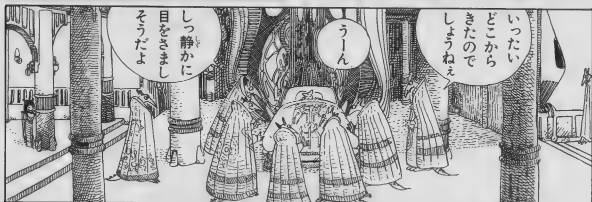

あっ
雲海だ
ゴゴゴゴ


なん
だあ
ドーン


わっ!!


わあ！
ボコスコ

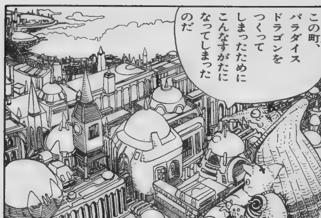

パラダイス
ドラゴン
第2回


いったいどこからきたのでしょうねぇ
うーん
しっ静かに目をさましそうだよ


いてててて体中が痛いや
ほほっどうやら目がさめたようだな
うわっこの牛人間め!!
わぁ


まてまてわしらはドラゴンじゃ
牛人間ではないぞ
うそつけ!!この本と全然ちがうじゃないか
それはなわしらの先祖の姿じゃ
先祖
!!
われらドラゴン族には多くの知識と発明があった


そして機械にたよったわれらは自分の力で飛ぶことをわすれてしまった
わぁすごいながめだ


この町、パラダイスドラゴンをつくってしまったためにこんなすがたになってしまったのだ


あーあ
どーした




この本にはこんな強そうなドラゴンがいるのに
話がちがうよ


わしらだとてこのままでは体がなよって病人のようになってしまう


昔のような強いドラゴンになりたいそのために昔、ある人がひほうをのこしてくれた
その隠し場所を示した地図がここにある




それをぜひお前にさがし出して来てほしいのだ
そんなものお前たちがさがしてくればいいじゃない

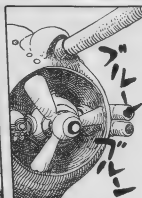

お前のように力もないそれに雲くじらのはりにひっかかったのを助けたのはわしらじゃ
ちぇわかったよ


ない

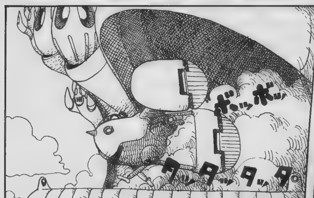

あっ
どろぼう

パラダイスドラゴン

第3回

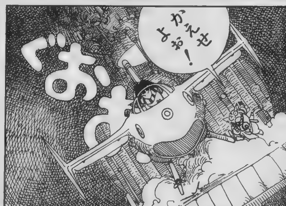




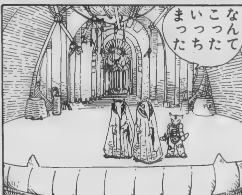


114



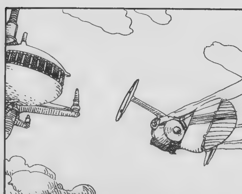








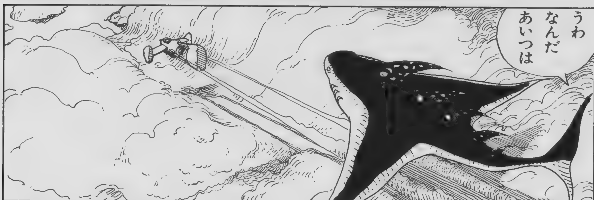




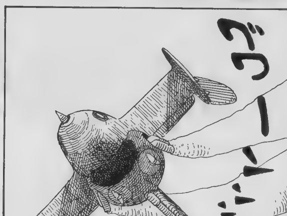

おっ 飛行機が かえって きましたぞ


ぐぉ〜ん


どひゅ〜ん
あー おれの トロットが

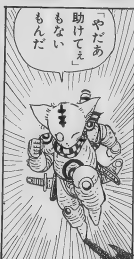

うわ なんだ あいつは


まずい 雲ざめだ
早く ほうげきの じゅんびを


グワーン


やだぁ 助けてぇ


まったく 冗談じゃないぜ 人の飛行機 かっぱらっと いて…
キャア
キャア
キャア
キャア

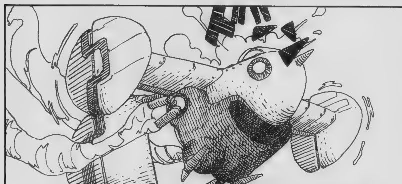

「やだぁ 助けてぇ」 もない もんだ


いやっほう

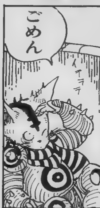
パラダイスドラゴン

第4回

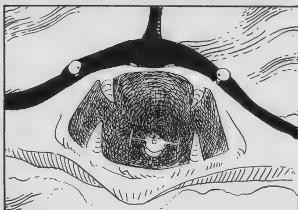






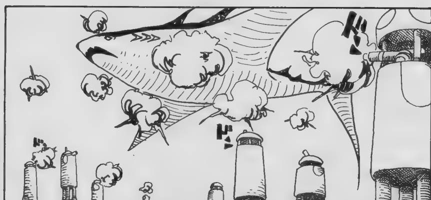




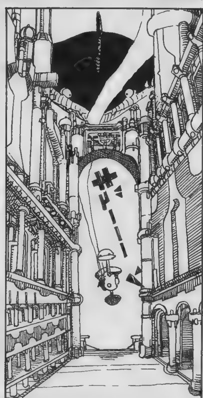


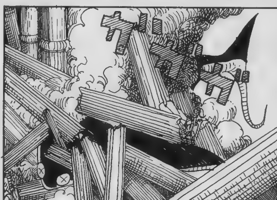





ドン
ドン
ドッ

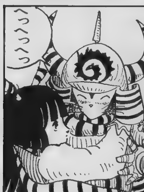

きゃあ
まだついて
くるわ
あんにゃ
ろう

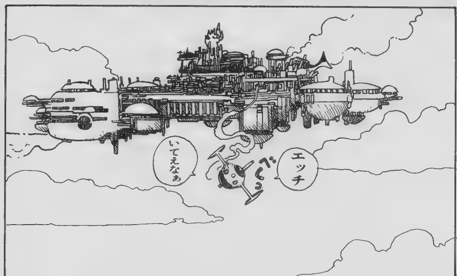

ザドーーー


カ


かまぼこを
つくるぞー
おー


やったー
い
キャッホー


へっへっへっ

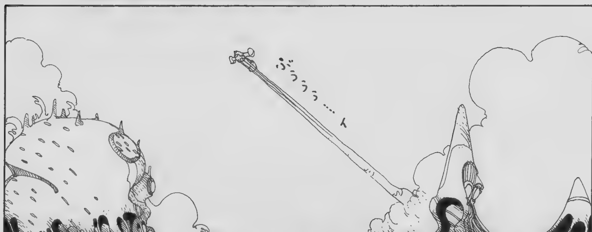

エッチ
いてえなぁ

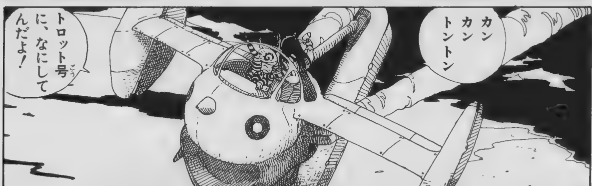

さて、この
かまぼこ
おでんにするか
ちゃわんむしに
するか?
正油かけて
くっても
うまい
ですよ



パラダイスドラゴン

第5回



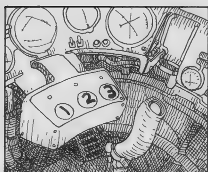








118

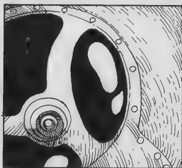
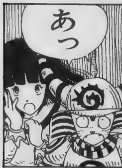


私はこうみえても技術師のむすめよ
この飛行機あんまりたよりないから改造しちゃった
改造しちゃったって……

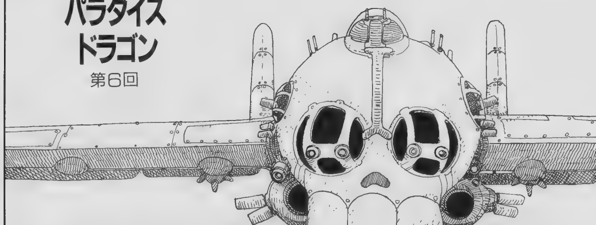
これはおれの飛行機なんだ!かってにいじくるな!

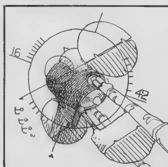
なによいいじゃないの強くしてあげたのよ!

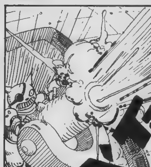
おれは秘法をさがしてくれといわれたけどフリアをつれていってくれとは言わなかったぜ
なーによユーカ一人じゃ何もできないわよぉ

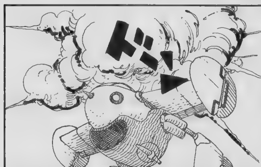
あれっ
どうしたの


あっ

かいぞくせんとうきだ!

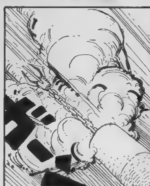

パラダイス
ドラゴン
第6回

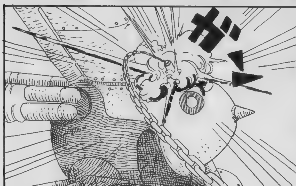

16
42
ピピピ



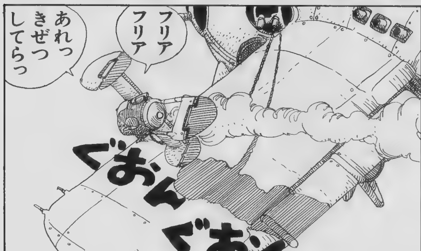

ドン

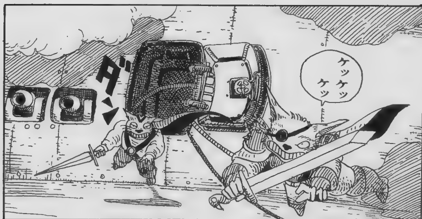

キャああ

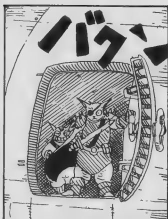

ガン


ガン

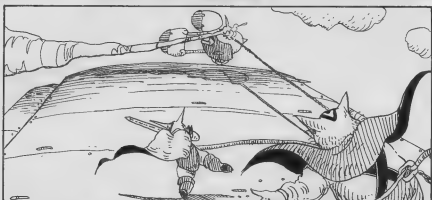

くそお


フリア フリア
あれっ きぜつ してらっ
ぐおん ぐおん

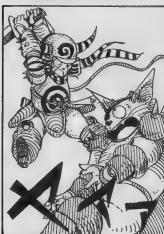

ダンッ
ケッケッ
ケッ


バタン


おれだって
空中戦くらい
できるんだ
ぜ！
ギュッ



121



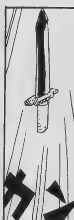



うおりゃあ

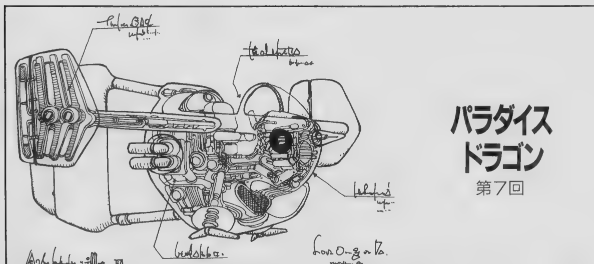

おやじぃッ！


ふん
みじゅく
ものめ！


あっ


カン


ガキッ


パラダイス
ドラゴン
第7回


うーん


あれっ ユーカ どこ？
ゴオン ゴオン


こら ユーカ まちなさい
いやだったら いやだよぉ


家にかえりなさい。かーさんが心配しているぞ！
いてっ
おやじ、なんでそんなかっこうしているんだよ
けり けり

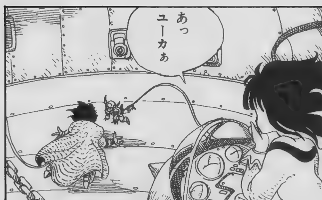

飛行機保険のセールスマンやってたんじゃないのか？

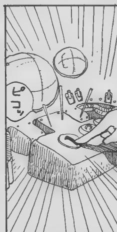

ふっふっ セールスマンなど、まっかなうそ

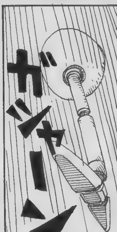

ほんとうは海ぞく飛行機の船長よぉ

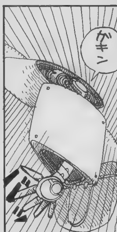

おふくろにばらしてやる ケケッ

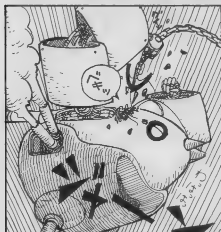

なまいき いいおって お前には 男のロマン がわからん のか!
いいつけら れたくなかっ たら、見のが してくれよぉ


あっ ユーカぁ


ピコッ


ガシャーン

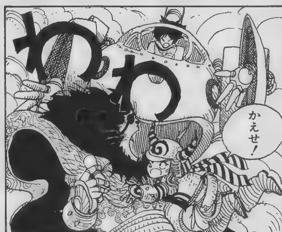

ガキン


ベキッ


ユーカ!
バタバタ


なんだ これは?
あれっ

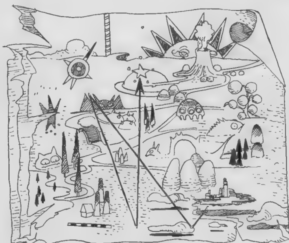

かえせ よぉ

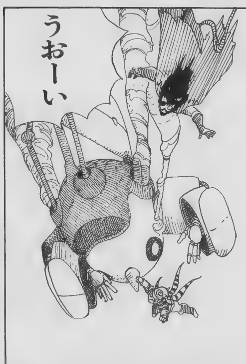

わわっ
かえせ!


あっ!!

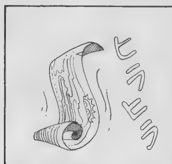
パラダイスドラゴン

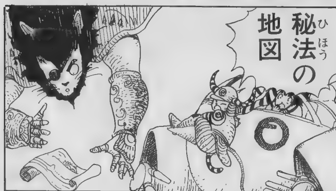
第8回

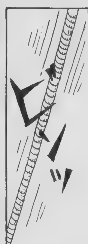








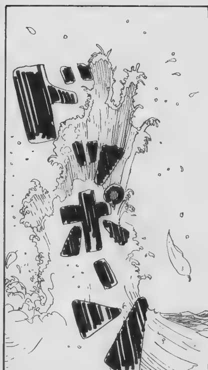


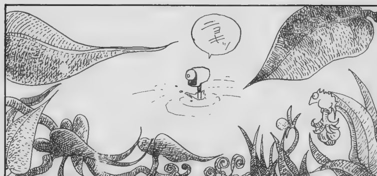






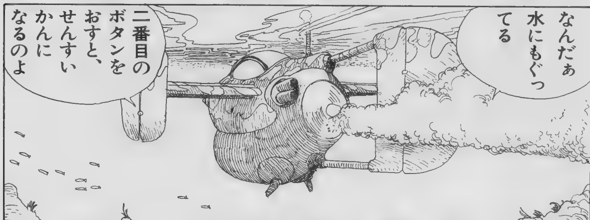



ドッポーン


ニョキッ


ユーカ
だいじょうぶ


はて
ここは？
トロット号の中よ


なんだぁ
水にもぐってる
二番目のボタンをおすと、せんすいかんになるのよ


すげえ


じぃろっ


わぁ

パラダイスドラゴン

第9回






















マッカチ沼の へなちょこ 怪物や
モモカン城の おひめさま いろんなことが まちうけていた


そんな時 ぐう然 おれは ドラゴンの 秘宝を見つ けた

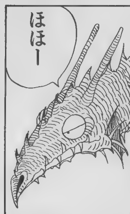

そして 秘宝の中に あった薬を のんだ だから、おれは 強いドラゴン なんだ


それじゃ 秘宝の ある場所を 知っている のね
ドボン

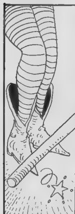

その場所は、教えないぜ、弱虫には!!


弱虫か どうか 見てらっしゃい!!



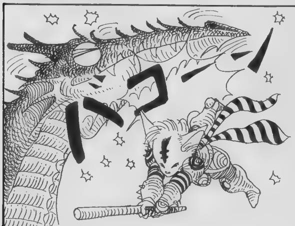

ほほー






わぁーん!!

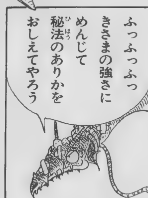

てめー 泣かしたな おれが 相手だ!!



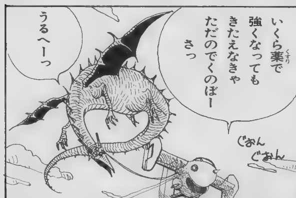
パラダイスドラゴン

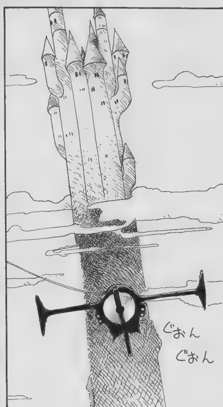
第10回



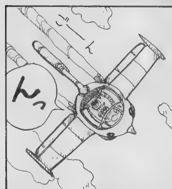






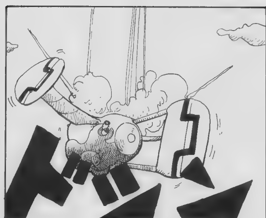
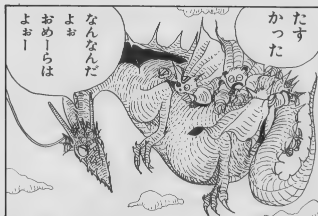








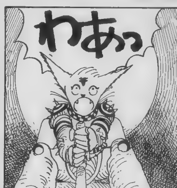
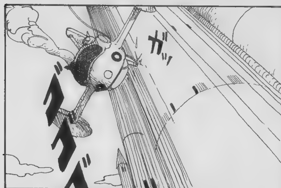
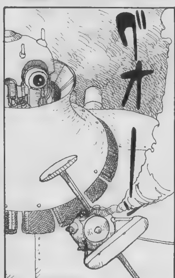
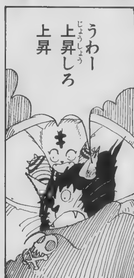




たすかった
なんなんだよぉ おめーらはよぉー

ユーカ たすかったぞ

おやじ
おやぶーん

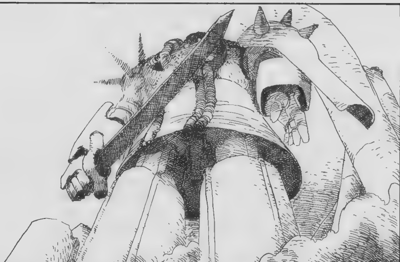
ぞわ

ユーカ エンジン!!

わあっ

ガッ

グオー

うわー 上昇しろ 上昇

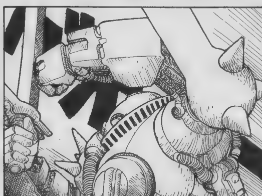
グオン
グオン

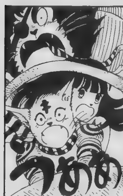
パラダイスドラゴン

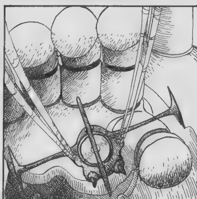
第11回



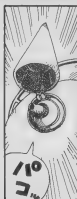






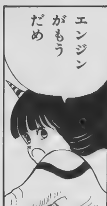




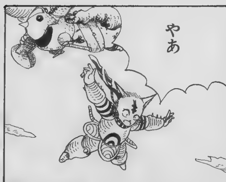




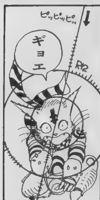
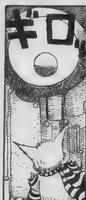
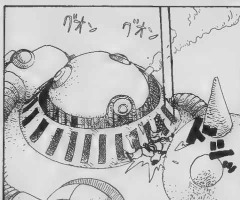
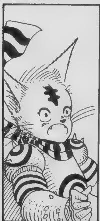
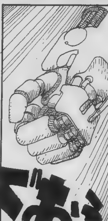
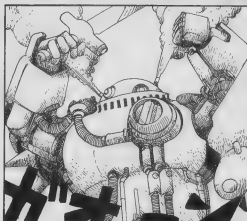
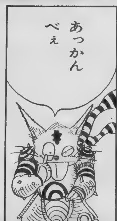




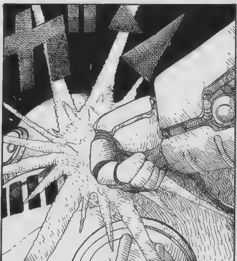




やあ

よし
今だ！

グオ＝
グオン

ピッピッピッ
ギョエ

ギロッ

グオン　グオン




あっかん
べぇ

ガガーン

キャアア
ユーカ！


パラダイスドラゴン

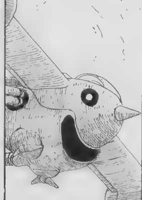
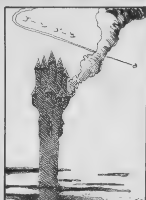
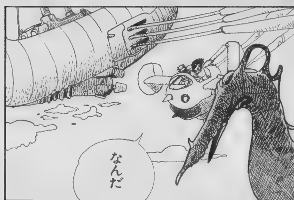
最終回

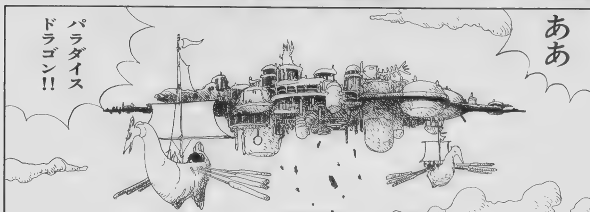


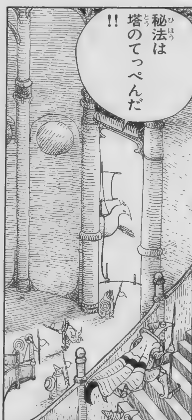









秘法は塔のてっぺんだ!!


フリア


あのね とうさん ユーカがね


どうやら わしらが来るのが、一足おそかったようじゃな


わしらは お前たちが 秘法を持って 帰るのを まっておれ なかった


ふう


パラダイス・ドラゴンが今にもこわれそうなんじゃよ
だから 早く強い体で とびたたなければ いかんのじゃ


おめーら よくさがせ!! ぜったい 生きている!!
おお
おー


秘法が あったぞ!!


おーお


うーむ
ユーカ


ドカッ!


あっ


がっはっは

FIN

座談会

合作の絵はいかなる経過で創り出されるか

加藤洋之
後藤啓介
村雨ケンジ
斎藤若子

村雨　二人の出会いってどんなの？　なれそめ、っていうか。
後藤　なれそめ？
加藤　きもちワリィよ。大学のSF研、漫研。
後藤　あんまり漫研の方には行ってない。
加藤　漫研でシャープペンでしか描いてなかったもん（笑）。
村雨　初対面の印象は？
後藤　汚ない奴だなと思った。
加藤　宴会で僕酔っぱらってクダまいてた。コップのビールこぼしながら歩いてたの。オイ、飲め、とかいって。
後藤　その時は、どんな絵描いてるか、お互いに知らなかったのね。
加藤　いや、オレは知ってた。同人誌の絵みて、こんな上手い奴がいるのかって、一瞬、冷や汗を流した。
村雨　それまでは自分が一番上手い、と。
加藤　そう。
後藤　あ、オレもそう思ってた。×××の絵を見るまでそう思ってた。
加藤　ほォ……。
村雨　じゃ二人とも相手の絵見てヤバイ！って？
加藤　ヤバイと思った。
後藤　思った思った思った。それまではね、自分が一番ウマいと思ってた。
加藤　宴会でクダまいてて、絶対にコイツじゃないと思ってた（笑）そしたらコイツだった。後藤は女の子描くの上手だったから、SF研でTシャツ作ろうって時に合作したの。
村雨　それが一番最初の合作？
後藤　そうそう。
村雨　どっちから言いだしたわけ？　一緒にやろうって。
後藤　先輩がいったんじゃないかな……二人でやれって。
村雨　似てると親しくなる場合と、嫌だなって思う場合があるでしょ。あいつは自分に似てるから嫌だってのが。
加藤　そういうのは、なかったよね。性格はずいぶん違うよ。
後藤　ハハッ。…全然違うと思います。
加藤　よく言われるもん、正反対だって。
村雨　コピー誌の「ワークス」（同人誌）で合作してさ、とまどいとかやりづらいとか、なかった？
加藤　結構つらかったな。
後藤　そうかなあ。1号の時は、ワッハッハと楽しくやって、2号から、なんとなくキマった、というか。
村雨　その時すでに分業だった？
加藤　うん。もう完全にメカと女の子に分かれてた。
村雨　メカを加藤くんが、女の子を後藤くんが描いてた、と。今と比べてタッチの違いとかあった？
加藤　いや、なかったよ。両方、丸ペン使ってたし。
村雨　あのさ、作品にかかる前に二人で企画書かいたりするの？
加藤　えっ!?
後藤　だいたいラフスケッチとか、こういうのがいいんじゃないですかという一言。
加藤　最近はもう何か…。

後藤　あァ、だいたい相手が何考えてるのかってのはわかるんで……まァ、それに自分の考えを上乗せできればいいな、と。

村雨　お互いゆずりあってるみたいな。

加藤　それはないね。

後藤　ない。ははははは。

村雨　ぶつからない?

加藤　ぶつかるよ。マンガは非常にぶつかるな。でも、最近はあんまり、ない。最近はマンガ描いてないから。ははは。

村雨　二人のことだから、フツーの挿し絵はちょっとイヤだって感じあったでしょ。別のもの創りたい、みたいなさ。

加藤　あの頃は、わけわかんなくて。

後藤　うん。何か、わかんなかったな。

加藤　イラストうまく描けなくてさ。佐藤道明さんに一回しか会ったことなかったけど、住所教えてもらってたから、ハガキ出したの。イラスト描くこと教えてくださいって。そしたら即電話があって、来てくれて。いろいろ教えてもらった。仕事のしかたから編集の人への接し方まで。コミックボックス・ジュニアの表紙のとき、カラーだっていわれて、あの、カラー描いたことなくてさ、ギター・ペイントでさ。

村雨　ギター・ペイント!!（大笑い）

加藤　こんなぶっとい筆一本しかなかったわけよ。これだけありゃ、いいやって。そしたら、道明さんが『君たちはこんな悲惨な絵具と筆使ってるのか!!』じゃ僕が貸してあげようって、バイクで戻って、透明水彩と……。

後藤　筆を。たくさん。

村雨　お手本見てそのまんま描いちゃう人っているでしょ。ああこういう色使いあるな、って。そういうのなかった?

加藤　そういうのはなかったな。

後藤　自分の好きなようにやれないとイヤなんだよね。なんか見ながらやるんじゃなくて、自分で勝手にやった方がノリがいいんではないか、という。

加藤　基本的に、モノ見て描けない。

後藤　だから、こんなコップ描けとかいわれたら、たぶん描けないんじゃないかという気が……。

加藤　ヤマトしか描けないもん。

後藤　ドラえもんは描けるよ、すぐ。ははは。

村雨　すでに頭の中にビジョンがあって、それを描き写していくってのと、大まかなイメージから手で描いてくうちに具体的になっていく、の、どっち?

加藤　手の方。頭の中には、あんまりない。

後藤　いや、頭に多少あるけど、手が追いつかない。

加藤　やっぱり手で試行錯誤して、消しゴム使ってるうちに……。

後藤　何か、パッとできる、というのがよくある。

加藤　だから紙がボロボロになってくる。

後藤　ボロボロ……いつもそう。

加藤　ほら、消すのが嫌なんだよねオレ。一回描いたモンで消したくないじゃない。だから、ラフ描いて決めても、全然違うものになっちゃう。

村雨　で、しかも「二人」でしょ。

後藤　ぐちゃぐちゃです。はっはっは。

村雨　こいつはオレの考えてるのと違うもの描くって?

後藤　あ、ああ、うん、あるけど……そこはとどまって……はははは。

加藤　でも、オレとオマエ考えてたのより、以上のイメージが出りゃな、って思う時が多い。うん。

村雨　カトー先生ああ言ってますが、どうですか?

後藤　え? あ、うん。加藤が描く分には充分。悩むとすれば自分の描いたところが、ついていけないな、とかですね、やっぱり。

加藤　それはある。お互いに。

後藤　だから、相手が描いた分には、あんまり何かいうこともなくて……で、自分描いたところは、まだまだ、と。

村雨　自分が結構ウマくいったと思っていたら相手はもっといいもの描いてる、って。

後藤　そう、あるある。

村雨　それはいいコトだね、結果的に。絶対ひとつ以上の案が出るってコトだもんね。

後藤　だから、それがいい面でもあるし、たまに足ひっぱることもあるし……。

村雨　たとえば?

後藤　ある程度ここまで描くだろうなと予想つくようにはなったんだけど、たまに抜けたりするわけで。

村雨　それは、しかたないよね。

後藤 自分の中に凄いイメージがあった時に違うイメージ出されて、自分の方のに固執しすぎてると嫌だな、ってのはあるけど……そこはまた違った面で納得してしまう。

村雨 違うなと思った時に、言う?

後藤 言う言う。

加藤 それと昔はね、オレの方のがいいんだっていう、あの、非常に独善的な思考が働いて。

村雨 オレが引っぱってく、みたいな?

加藤 いやいや、そういうんじゃなくて。相手の出したイメージが自分のより良くても、やっぱりオレの方でやりたいっていうか。お互いにね。それでケンカになったもんだけど、最近はそんなことなくなったね。素直にいい方を取れるようになったというか、人間が丸くなったね。うん。

後藤 成長しました(笑)。

村雨 人間が丸くなると先がつまらなくなることって、一人の場合あるでしょ。二人だからいいよね。

加藤 どっちがいいイメージ出すか競争だからさ、そういうのはいいんじゃないかな。

斎藤 ライバル意識っていうのはないの?

加藤 あるよ。

後藤 ありますよ、たまに。

加藤 やっぱりね、後藤よりいいの出そう、って思うよ。

斎藤 読者から見ると一人なんだけどね。

村雨 そういうこと、口に出す? 負けねーよ、とか。

加藤 言わない言わない。

村雨 でも、例えば編集者から、ここいいねとか言われるコトあるでしょ。

後藤 ああ、加藤が描いたとこがいいねと言われて、やっぱり僕はムッとしちゃうとかあるけど、うん、それはもう、二人でひとつの絵だから、よしよし、というふうに。

村雨 顔に出さない。

マンガにしてもイラストにしても基本的なコンセプトってあるでしょう。コンセプトの出し方の違いってある?

加藤 違いはあると思うよ。やっぱり考えてることが違わないと面白くないんだよね。読んでる本もずいぶん違うしね。後藤が読んだ本、読まないし、オレが読んだ本、後藤読まないしね。

村雨 音楽は?

加藤 それは、しようがないよ、だってステレオは一台しかないんだから。

(一同大笑い)

村雨 経済的に苦しかったことってある?

加藤 仕送りあったもん。金には全然困ってない。

後藤 とりあえず、あんまり苦しかったというのは、ない。

加藤 ああ、オレ、占いでねえ、あなた一生金に困りません、なんて言われたから、だからねえ、マンガ家やってんのよ。

(一同大ウケ)

村雨 オレ＊＊＊みたいにさ、原稿料はいったの家に送るじゃない、そういう話を聞きたかったのに。(加藤、ウケてる)

後藤 ない。送るなって言われてた。貧乏人がくれなくてもいい、とか言って。

斎藤 すごい。立派な親御さん。

加藤 その上レコード以外買うものないからね、僕は。レコード、CD、本以外は。で、遊ばないからね殆ど。金は全然使わない。

村雨 親にどういって説得したの?

加藤 僕はね、あ、そうですか、って言われたね。お袋は一応絵やってたのよ。美大出てるし。弟も絵やってるし。オヤジはあのカナダで仕事してたから、お袋が出かけていって話したらしい。帰国してオヤジが『洋之、就職するのか?』『いや、しません。マンガ家になります』ったらね、『あっそうか』とか言って……(この時全く無関係に、よその席で祝福の大拍手が湧き起こる)

いや、全然、ケンカも何もしなかった。拍手があったぜ(一同なごやかな笑い)。

村雨 後藤くんは?

後藤 どうだったか忘れちゃった。とにかくエリアの本が出たんで、アレを見せたら、ああやってけるんじゃないか、みたいなこといわれて。かなりスンナリ行かせてくれたというか。

加藤 だから比較的こう運がいいんじゃないかなと思いますよ。仕送りしてもらってる時は、原稿料はみんな貯金してたし、卒業して仕送りがなくなったら、しばらくは仕事があんまりなくてもそれでやっていけたし。うまく「ダーコ

ーヴァ」が始まって、毎月定期的に金が入るようになったし。だから、殆ど問題ない。

村雨 贅沢してない？

後藤 加藤 貧乏性（苦笑）。

村雨 どういう風に？　メシ代とかは？

加藤 自炊だもん。仕事忙しくなると外食。

村雨 誰が作んの？

加藤 僕。

村雨 じゃ、後藤くん新聞読みながら、メシーって？

後藤 あら、洗うんです（ゆっくりどもる）。

村雨 あー、あっそうか。洗うわけ。

後藤 洗うわけです。

村雨 掃除とかは？

加藤 オレあんまりしないけど。オレね、汚いの平気なの。意外とね、コレ（後藤くん）潔癖症っていうか。

後藤 潔癖症まではいかないから。

斎藤 じゃ猫の世話は？

加藤 あれ世話しない。トイレは外へ行っちゃうし。キャットフード皿に入れるだけだし。

村雨 六畳と四畳半でしょ？　どういう部屋分けで住んでるの？

加藤 オレが六畳。机は別々にあるよ。四畳半に後藤のでかい製図用の机があんの。

村雨 テレビはどっちにあるの？

加藤 テレビ見ないもん。

村雨 レコード、ステレオは？

加藤 ステレオはさ、ヘッドフォン二個つないで。六畳の方にあるから、延長コード。

村雨 生活のメインは六畳？

加藤 そう。

村雨 じゃ後藤くんの四畳半は個室？

後藤 いやあ、四畳半ってのは狭いですから。（台所への通り道だから、個室とはいい難い）机があって寝る場所があってそれでおシマイ。

村雨 あ、寝る場所、別なんだ。オレねー、二人でひとつのふとんに横になってエ

後藤 あのなーッ（笑）気持ち悪い!!

村雨 そういう部屋割りで、こっちから先はあんまり入るなとか、暗黙の了解ってある？

加藤 後藤 ないね。

村雨 それから、あんまりこういうコトは言ってくれるな、ていうのは？

加藤 そういうのはあるけどね。でも、お互いに、そういうのわかってるじゃない、ずいぶん前に。

村雨 トラブルがあったことは？

加藤 ない。勝手にやってるから。休みの時は。

後藤 加藤はひたすらレコード屋に走ってる。僕は本屋が多い。

加藤 結構、後藤は絵描いてるよ。実際、殆ど仕事が趣味みたいなものだから。

後藤 三日間やらないと凄いイライラしてくる。ま、生活が掛ってるというのがあるんですが。なんで早くアイディア出さないんだとかいって当ったりすることは、僕は、ある。でも、締切は絶対に守らなければならない、っていうのは加藤です。で、一日や二日は延びるに違いない、平気だ、というのは私が言ってます。

村雨 仕事始めるキッカケはどっちから？

加藤 オレかな。

後藤 加藤が早い。さっさと始めてさっさと終って、先に寝ちゃう。あー、オレ、まだ終ってねーやって。

加藤 オレ早いんだよ、仕事すんの。

村雨 ページで分担するの？　コマ？

後藤 コマかな…。

加藤 コマでも一応分担する部分あるよ。

村雨 下描きは一緒にやるの？

加藤 うん。マンガは描くとこいっぱいあるじゃない。だから、自分のやりたいところから先に。

村雨 最初のネームとか話作る段階は別として、作画の段階になるとアニメ（制作）みたいなものでしょう？

加藤 ある程度はね。でもあんまりディテール細かく決めることはない。

後藤 細かいとこはいきなり好きにやってくれ、みたいに。

加藤 全部決めたら、面白くない。

村雨 決めなかったら予定と全然違うものになったりしない？

加藤 そういうことはない。

村雨 お互いに合わせるの？

加藤 不思議だと思うけど、特に合わせようとはしてないのに、結果的には合ってるよ。　（1987年12月23日）

トーランドットの錬金術師

著者 加藤洋之&後藤啓介

発行人 才谷遼　装丁 矢野敬子
発行 ㈱ふゅーじょんぷろだくと
〒160 東京都新宿区新宿5—18—9酒井ビル5F ☎03(207)1084編集/☎03(354)6155
初版発行 1989年10月3日
印刷 ㈱平河工業社

Printed in Japan Fusion Product 定価1236円（本体1200円）



ISBN4-89393-050-8 C0079 P1236E